令和５年度

石川未来プロジェクト事業

成 果 報 告 書

公益社団法人
大学コンソーシアム石川

はじめに

石川未来プロジェクト事業は、公益社団法人大学コンソーシアム石川の地域連携事業の一環として、令和３年度より開始された事業です。「石川未来プロジェクト」は、大学コンソーシアム石川の特徴を生かして、石川県内の高専、短大、大学、大学院を跨ぎ、専門性を超えた、全国でも珍しい横断型プロジェクトです。また、３年に１回変わる大テーマ（これを「未来テーゼ」と呼んでいますが）に対する具体的な課題を発見し、その課題に対する解決策を立案し、さらに、それを社会実装する、まさに問題解決型プロジェクトでもあります。

未来テーゼは、「２０５０年における石川県の、人口１００万人。」です。これは、今から約３０年後の令和３２年（２０５０年）に達成したい石川県の人口を意味しています。現在の石川県の人口は約１１１万人ですが、このままの状態ですと、今から３０年後には８９万人になると予想されています。なんと２２％もの人が減少する推計です。さらに高齢者の比率が高まります。人は石川県の貴重な財産です。いかに人口減少を食い止めるか、これが石川の将来に直結します。

少子化は仕方がない、少子化は予測できるから都度対策を打てばよい、一人当たりの生産性を高めれば少子化など問題ない、多様化が進めば少子化は必定である、などと言って問題を全て先送りしているような状況下、その代償を支払わされるのは、今現在の学生達なのであります。

石川県の輝かしい未来を創るのは、現在高等教育機関に所属している学生達を含む若者です。そして、このプロジェクトに１１名の高邁な精神をもつ有志が参加してくれました。

この報告書は、この学生達が約１年を掛けて取り組んだ成果をまとめたものです。プロジェクト活動に不慣れな学生達が、自分の考えを述べるだけではなく、追加的意見と建設的批判を交え、ブレインストーミングなどの手法を準用しながらまとめ上げたこの報告書を、是非、ご賢覧賜れれば幸いです。

令和６年初日に石川県能登地方を震源地とする最大震度７の地震が発生し、住宅倒壊、住宅火災、地盤災害、津波被害をはじめとした甚大な被害が発生しました。この地震により被災された皆様へ謹んで哀悼の意を捧げますとともに、様々な被災者支援活動や、被災地復興に献身的に携わる方々に心から敬意を表し、一日も早い事態の収束・改善を願って止みません。このような状況の中、学生達の潜在能力を十分に発揮しえなかった心残りはありますが、プロジェクト活動を支え、良い方向に導いてくださったコーディネーターの金沢工業大学の花岡大伸先生、山岸邦彰先生、金城大学の神谷晃央先生、金沢大学の篠田隆行先生には、心より感謝申し上げます。

公益社団法人
大学コンソーシアム石川
地域連携専門部会
部会長　榎本　俊樹

農業から石川を元気に！！　農泊×スマート農業

チーム名　　農泊×スマート農業
指導教員　　金城大学　医療健康学部　准教授　神谷 晃央
参加学生　　・金沢工業大学　情報フロンティア学部　３年　赤澤 菜摘
　　・公立小松大学　生産システム科学部　　２年　伊藤 将大
　　・かなざわ食マネジメント専門職大学　フードサービスマネジメント学部
　　１年　辰野 凌乙

1.　活動の成果要約

チーム「農泊×スマート農業」は、未来テーゼを達成するために「食」をささえる農業振興が欠かせないと考えた。農業振興のキーワードから「農業を活性化させることを目的に、ICT を農業に取り入れた農泊イベントを実施しその成果報告を広報として発信する」をチーム目標に設定した。農業用気象 IoT デバイスを販売する株式会社 farmo 様とデバイス利用者である農家様への取材、志賀町で農家暮らしを体験できる農家民宿古民家こずえ様での農泊体験と志賀町熊野地区で稲作をしている複数の農家様への取材、石川県農林水産部農業経営戦略課様への取材を経て、農泊×スマート農業も包含した「農村部のサードプレイス化の促進」が未来テーゼの解決案の１つとなると考えた。

２．　活動の目的

県内の就農者数は 2020 年に約 3 万 4 千人であり、2015 年から約 2 万人減少したと報告がある。一方で、県の推進する新規就農者はわずか年間 120 人前後であり、持続可能な石川の農業を整えていくことが石川の将来の成長基盤に欠かせない。そこで、我々は議論の末「農業を活性化させることを目的に、ICT を農業に取り入れた農泊イベントを実施し、その成果報告を広報として発信する」という活動テーマを掲げ、半年間の取り組みをスタートさせた。

３．　活動の内容・成果

(1) 各チームの進捗状況の共有ミーティング（学生交流会）の主催

1. 場所　四高記念館 多目的利用室 4

2. 日時　10 月 25 日(水)　19 時 10 分～20 時 45 分

3. 経緯

未来プロジェクトの活動前半は参加者全員で活動していたことから、久しぶりに出会い、進捗状況を共有することで未来プロジェクトを活性化したいと思い立った。目的は以下の通りであった。

・意見交換によって他チームの良いところを参考にできる。
・学生間交流が広がる。
・相互チームの進捗の確認ができる。

4. 内容

時間	内容	詳細
90 分	各チームの進捗紹介	各チームの進捗紹介 ゆるい発表 10 分 発表テーマに関するゆるい座談会 20 分 　司会： 辰野 凌乙

5.成果

夏以降、チームに分かれて活動していたことから参加学生全体での交流が無くなった。多くの学生との意見交換や学生間交流で得られるものが多かったことから、A チームの辰野が各チームの進捗状況の共有ミーティング（学生交流会）を企画運営した。学生参加は対面 6 人、オンライン 1 人の合計 7 人が集まった。進行は学生が主体となり各チームの現状の進捗報告と今後の活動についての情報共有の機会となった。

(2) 株式会社 farmo 様への取材

1.場所　オンライン

2.日時　10 月 10 日(金)　18 時 30 分～19 時 30 分

3.経緯

チームの目標の中で、「農業の活性化を目的に、ICT を農業に取り入れた農泊イベントを実施する」を掲げた。その第一段階として、スマート農業を導入している農家様を調査した際に、株式会社 farmo 様（以下 farmo 様）がプロジェクトとして、IoT かかし(かかしに farmo 様が開発した気象センサーを組み合わせたもの)を開発していることを知った。その後、farmo 様に連絡をし、取材の許可を得た。さらに、farmo 様からご紹介いただいた農家様にもお話を伺うことができた。

4.参加者　株式会社 farmo 担当者様・農家様(IoT かかし導入者)・伊藤・辰野・赤澤

5.内容

まず、どうして気象センサーがかかしなのかについて少しだけ触れたいと思う。かかしと聞くと、田んぼなどに設置されている鳥よけ等のイメージを持っている方も多いのではないだろうか。実はかかしは「久延毘古神(くえびこのかみ)」という、古事記にも登場する田や山を司る博識の神様である。IoT かかしはその「久延毘古神(くえびこのかみ)」をモチーフに、IoT かかしを中心とした町おこしを目的に作成された。

farmo 様が行ったプロジェクトで、IoT かかしを取り入れた農家様にお話を伺うことができた。農家様によると、IoT かかしから得られた風速や気温などのデータがスマホに 10 分おきに入ってくるため、ピンポイントで現在の気象状況が分かるという利点があるとお話しされた。実際に、風速も温度管理もどれも農作業には大切なものである。例えば、風速の確認が自宅で出来たら、農薬散布のために田んぼへ行かなくてもよくなったり、お米を栽培している農家様であれば、お米は温度管理が非常に大事なので、具体的な温度が分かると、それに合わせて水の調節が行えたりする。どれも利点な点ばかりだが、実際に機器を導入するとなると、機器自体が高額なため、実際に導入している組織は主に法人である。しかし法人であっても経済的な状況は厳しいとのことであった。

図 1. IoT かかしから送られてくる気象情報

図 2. IoT かかしと A チーム伊藤

図 3. farmo 様とのオンラインミーティングの様子

6. 成果

私たちは ICT を取り入れたスマート農業の実践例を知ることができた。しかし、現在の農業の状況を見ると、人の手でしかできない作業があったり、作業工程毎に機械が異なるためすべてをそろえられなかったり、そもそもの農家様の収入が少ないという現状があるため、簡単にスマート農業を取り入れることができない現状にあることがわかった。

(3) 古民家こずえ様とゆめうらら様への取材

古民家こずえでの農泊体験記録（写真）

アイスブレークを兼ねたミーティング

懇親会の様子

古民家こずえでの薪割り体験

北國新聞様からの取材の様子

1.場所　古民家こずえ様（石川県志賀町）

2.日時　11 月 25 日(土)～26 日(日)

3.経緯と目的

チームの目標達成の第 1 段階として、実際に自分たちで農泊を体験してみようということになった。候補地決定に際し、取材許可と我々の活動をお伝えしたところ、古民家こずえ様より快諾をいただいた。体験内容について連絡を取っている際に、古民家こずえ様より、スマート農業を行う農家様への取材許可のお話をいただき、スマート農業の現場を知るために、ゆめうらら様への取材を行った。

4.目標

・農業の現状や課題点を知りたい。
・農家民宿の体験・紹介したい。
・農業体験をして撮影・紹介したい。
・「石川」での農業の優位性（例えば石川観光との融合）を探りたい。
・ICT を利用した農業の現状や課題点を知りたい。
・ICT を組み込んだ農泊プログラムなどのイベント作りに関わり、広く紹介したい。

5.内容

取材 1 日目の、農泊体験と現地の人の話をもとに取材記録をまとめる。まず、取材を行った熊野地区の現状について。農地は、スマート農業をするにあたっての設備投資できる段階になっていない。現段階では、耕地整理や集積作業が進行中であった。この地区では、スマート農業をするにあたる準備段階にあり、現在農業を続けられている方曰く、スマート農業を取り入れたい気持ちはあるとのことであった。

次に収益面について。取材を行った農家の方曰く、毎年、耕作をしているが、採算としては±0 のようだ。また、十分な収益を上げることができないため、従業員を雇うことや、機械化を勧められないなど、農業の 3K「収益性が低い、肉体労働、汚れる」をいまだ克服できないという。

ここで、その他に収益面に関して農家の方が困っていることを報告する。初めに、いくらお米を生産しても販路がないということだ。独自の販売ルートを持ち得ていないため、米の売価が年々下がっていることを背景に、JA に出品すると「キロ単価３００円」にしかならないという。この単価では、労務費を賄うことができず、実質ただ働きになってしまっている。今の時代は、高付加価値をつ

けるか、オンラインショップ等での販売により、作り手の言い値でないと採算が合わない。また、輸送コスト面から、都市部近郊の農家に出荷先をとられてしまう。

次に、国や県からの農村部に対する補助金も制度としては存在するが、敷居が高い。かつ、補助額も中途半端で手続きも煩雑であるため、改善を行ってほしいとの声があった。さらに、農家には切っても切り離すことができない、気象による収穫量の不安定さが収益の不安定さに追い打ちをかける。

では、なぜこの地域の農家さんたちは農業を続けて、かつ他地域に遅れていても先端技術を取り入れようとしているのだろうか。答えとしては、収益性がすべての目標ではなく自分たちの先祖代々受け継がれて生きた土地・地域・その景観を維持するために毎年耕作を続けているという。この熊野地域は山と山の間に広がる緩やかな傾斜地に位置し、その中央部には長く畑が続いている。少し高いところから見下ろすその田畑は時期になるととても綺麗だという。特に 60 歳以上の方たちにその意識が強く、農業を続けるモチベーションになっている。また、自己の居場所にもなっている。

熊野地域における今の活動と取材を行った熊野地域協議会「2010 年頃より発足」メンバーの方々の現状を報告する。熊野地域協議会では自分たちの地域では何ができるのか模索中という。

古民家こずえ様では、以前は減農米や、無農薬米にチャレンジしていたが、収益の確保が困難であったため断念したという。現在は女性の Well being を目指したプログラムを考え、発酵食、薬草の歴史をテーマに農泊を企画している。具体的には、熊野地域の名産である薬草等を用いた食事の提供や、自然の中での体験活動の企画を行っている。

熊野地域で現在も農業を続けている A さんは、家にコンバインや田植え機、重機がそろっている。大きな費用となる重機を個人で所有している理由として、個々の重機は高いため、地域での共同購入も考えられるが、収穫時期の重なりや自分たちの所有物意識の有無から、上手く運営できないという。しかし、重機を買ったとしても、それらを保管する納屋が必須で、かつ修理費用を抑えるために、ある程度の修理技術も必要である。そして、大きな問題として、重機類を買ってもそれをペイできる収益性がない現状があるという。

熊野地域の農家での取材（A さん）

お米の精米、出荷「販路確保」までを夫婦で行っている B さんに話を伺うことができた。B さんはドローンを用いた農作業を約 10 年前から行っている。B さんは、独自の販路を有しており、わざわざ買いに来てくれる人もいるという。そして、ある一定期間を過ぎて売れ残った分を春先に JA へ出荷している。B さんが挙げるこの地域での農業の問題点は、収穫量に直結する耕地面積と米を出荷するまでに必要な費用がアンバランスであると指摘する。

熊野地域の農家での取材（B さん）

熊野地域協議会としての今後の希望や展望は、農作物に付加価値をつけ収益性を高める必要があるとのことだ。そして、今後の農業発展のために、特に経済面での現状を知ってもらう必要性がある。また、これらの問題点を解決して地区に新たな人、関係人口の増加を図ろうとしている。今回の我々のような若者の視点や協力、大学のゼミの協力は地域の発展にいい影響があると考えてくれている。

各農家様との意見交換会の様子

2 日目は、ゆめうらら様への取材を行い、その記録を報告する。

ゆめうらら様「以下、うらさん」は、スマート農業を最大限活用して農業を行っている会社である。うらさんの考えるスマート農業とは、頭を使って農業をすることであり、誰もが同じ作業ができることである。そして、農地などの最前線での現場では、人が必要でない農業のことをさす。また、使いこなす人もスマートでいることが重要であるという。

うらさん曰く、お米つくりに関しては、スマート化が十分に進んでいる、進みすぎている。具体的には、田植えや、飼育段階での水の管路、収穫に至るまで機械の開発が十分に行われている。よって、米の耕作面積に対する就業人数が飽和しており、稼ごうとしても稼げる環境になくなっている。しかし、それでもなお稲作を続ける人がいる理由として、うらさんは、稲田はみんな自分の土地だという意識が強く、なかなか手放さないという。そのため、農業の本当の人手不足は、果樹、畜産、野菜の生産現場で起こっている。

うらさんは活動を行う草場地区で、高齢のため農地管理できなくなった水田の農地集約を進めている。草場地区では、現地の生産者さんは、将来的に自分たちだけでは農地を管理しきることができないのではないかという危機意識が強いという。そのためうらさんが自分たちの農業のさらなる効率化に向けて先頭に立ち、生産者と協力して農地集約を進めている。

では、農産業の中で、スマート化が進んでいないのはどの産業かを尋ねた。すると、畜産業や果樹、野菜を作る現場においてスマート化が遅れているという。理由としては、動物が相手であったり、野菜などは一つ一つ収穫が手作業であったりするため、これらの作業すべてに対応できる機械はまだ開発されていないという。

ここで、スマート農業の利点としては、問題が発生したときに、仮説を立て、翌年仮説をもとに実行したら、翌年に結果は出るところであるという。

また、我々の活動について意見を求めた。特に、スマート農業活性化のために、農泊を用いる際、農業に参入したい人に農業のどの現状を体験してもらえれば、後押しになるか質問した。すると、都市部育ちの幼少期に土を触った経験が少ない人には手植え体験などでいいのではないか。しかし、田舎育ちの小学生に同じ体験をさせても上の世代や、自分たちの生活環境、風景に既視感を覚え逆に農業をしたくなくなるのではないかという意見をいただいた。また、うらさんから、農業未経験者は、スマート農業のどのような作業を体験出来たら、自分が職業にしたいと思えるか、という質問を受けたが、答えることはできなかった。最後に、うらさんの考えるスマート農業とは、人手を減らすことで生産性を上げ、スマート農具だけでなく、その操縦者もスマートではならないという考えのもと、わざわざ現地まで出向き、農泊でスマート農業を体験してもらうのは、逆方向のことしているのではないか、という意見もいただいた。

うらさんへの取材の様子

6. 成果

農家様への取材を通して、我々の考える構想とそれを実現できる環境や、お客様が農泊に対して求めるものに大きな乖離があるのではないだろうかと感じた。取材より、熊野地域の現状を鑑みると、スマート農業を導入できる整備が発展途上であるため、スマート農業を体験してもらう農泊を企画するには期間を要する。そして、うらさんや古民家こずえ様への取材から、農泊に来るお客様は、普段農業や土そのものが身近ではないため、その非日常を体験するために来ている。その中で、機械化の象徴であるスマート農業の体験は果たして魅力的なのだろうかという疑問を持った。また、この現状を打ち砕くことのできる打開案を新たに企画することはできなかった。

（4）石川県農林水産部農業経営戦略課への取材

1.場所　石川県庁

2.日時　12 月 20 日(水)　14 時 55 分～16 時 15 分

3.経緯
　行政が把握している農業の現状と対応策を知るため

4.概要
　石川県内の農業の現状、農泊やスマート農業の実態を知るため取材を行った。石川県の令和 4 年の新規就農者は 4 万 5840 人で前年に比べ 12.3%減少している、私たちはこの原因が農家の収入の少なさにあることを知った。現在農家の平均収入は 15～18 万と少ない、これは石川県の農業の主力がコメでありそのコメの値が下がっていることが起因している。こうなると大きな土地でより効率の良い農業をする必要があるのだが、農家がそれぞれ小さい土地をもって農業をしているという現状ではそれは困難だ。他にはコメを農協にもっていくのではなく自分で販路を確保しコメを売っている農家もあるが高齢化や後継者不足が理由でそれも難しくなってきているようだ。農業法人にも問題がある。特に農作業は繁忙期と閑散期があり、一年通しで見た場合の給料の振れ幅が大きく、できるだけ仕事を分散するようにしているそうだが、冬になると休みをとってもらうことになるケースも少なくないようだ。この現状に対し県は成長戦略として「農地の集約、集積を進めること」、「野菜を育てることを勧めること」を行っている。前者は農地の統合をし、機械などを使った効率の良い農業をすることで、後者はコメに比べ単価が高い野菜を育ててもらうことで収益の拡大を狙ったものだ。国からは転作（状況に合わせて稲からほかの作物へ栽培を変えること）も推奨され支援も出ている。

5.成果
　個人、地域としてこれからどうしていくのかという視点は今まで取材させていたただいた農家の方も持っていたが県全体としてはどうするのかという話を聞けたことで、農業のこれからをより具体的にイメージできたこと。

４．　今後への提案

　今回の活動を通して分かったことの一つに、農泊を体験したい都市部や普段農業が身近でない方々のニーズは、実際に農業を体験することや、田舎での暮らし、自然とのふれあいにあるということだ。そのため、我々の企画（農業を活性化させることを目的に、ICT を農業に取り入れた農泊イベントを実施し、その成果報告を広報として発信する）を今すぐに実現したとしても、ニーズとの継続的なマッチングが得られにくいと考えた。農村部は高齢化等による過疎化が進行する一方であり、地域コミュニティーの持続や田園風景などの景観保護の観点から地域住民の収益獲得は必須である。そのため、今後農村部を維持、発展していくためには、様々な地域に住む人の関係人口の創出や、サードプレイス化「農村部に農地を借り、週末のみ帰農するプログラムや、収穫期等に気軽に農業を体験できるファミリー向けのプログラム」の実現がより現実的と考えた。そして、農村部の PR や遠い都市部に住む人々とのコミュニケーションのツールとして、スマート技術を用い、その発展系として、遠隔地でもスマート農業を体験できる企画やプログラムが実現できたらいいのではないだろうか。
　今後も山間地域で活動を行う農家について。お米作りは近年の需要低下や、高齢化に伴う一農家あたりの耕地面積縮小が原因で、各農家が大きな収益を上げることは困難になっている。しかし、山間部では、景観保持のために耕作を続けている農家も存在する。そのため、年中売り上げを立てられる畑作への転向も一つではないだろうか。また、県内で生産される利点「出会いに行ける、収穫に行ける地域ならではの地区ブランド」を活かしたり、魅力の創出や向上のために地域農業や食に関するセミナー・イベントを行ったり、地域やお米（農作物）を支援する人々のコミュニティーの輪が作られたならばいいのではないだろうか。

５． 活動に対するコーディネーターからの評価

当チームは、異なる大学の異なる学年の個性の全く異なる３人それぞれが各自の能力を輝かせながら、自分たちでアイデアを絞り、議論を進行させてきました。夏からの短い期間ではありましたが、農泊の体験をはじめ農家様や企業様、県の所管部署に取材を実施することができ、石川の未来の持続的発展に必須の農業という基盤が危ういという現状も実感できた次第です。そしてなにより当初の活動テーマを、修正・拡張せざるを得なくなり、より現実的で望ましい考えに昇華できた点が良かったと感じています。

コーディネーターとしてはもっともっと先を目指したくなるものですが、学業、アルバイト、試験、余暇、就職活動、ゼミ活動など山積のなか、時間をやりくりして進めてきました。我々のチームとしては３人でいっしょに到達できるギリギリが今回の成果であると感じています。赤澤さん、伊藤さん、辰野さん、どうもお疲れ様でした！

６． 議事録添付

以下に議事録を添付する。

未来プロジェクト　議事録

2023 年 8 月 7 日　18 時 30 分　　～　　20 時 15 分
第 1 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、辰野、神谷
記録者：神谷
審議（活動）内容と結果 １．「当チームの取り組みの方向性」を文章化 「農業を活性化させることを目的に、ICT を農業に取り入れた農泊イベントを実施し、その成果報告を広報として発信する。」 ２．今後の活動 以下のゴールの段階を踏まえて、１．については毎回 10 分程度は議論して進めていく。 ２．３．について、今後は zoom のホワイトボード機能の共有を利用しながら、各自の思いを書き込んで形にしていく。次回ミーティングまでに記載しておく。 （補足）ゴールの段階 １．農業と石川の人口減少解決の関連性に関して理由を挙げられる。 ２．思考で終わらせるのではなく、実地調査に基づいた提案ができる。 ３．自分たちが関与した企画を部分的に試験実装し、その影響を評価することができる。 ３．議事録と司会の担当 ・議事録と司会の担当を、機会均等による各自の経験を積むためにまわしていく。順番は伊藤→赤澤→辰野さんの順とする。ただし、司会の役割は全員でサポートして進めていく。
次回ミーティング日程：2023 年 8 月 17 日（木）19:00~

2023 年 9 月 1 日　10 時 00 分　　～　　12 時 06 分
第 2 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、辰野、神谷
記録者：伊藤
審議（活動）内容と結果 １．意見交流 辰野　農泊体験と農業関連の機関への取材 赤澤　ライブ動画等を利用した広報 伊藤　「人とのつながり」を前面に押し出した広報 ２．今後の活動 以下のゴールの段階を踏まえて、 A　→　毎回 10 分程度は議論して進めていく。 B　→　実際に農泊を行う　10 月 7~9 日予定 　　農業の関連機関への取材を行う　（質問事項、企画の仮案が必要） C　→　これからの意見交流によって、企画を練っていく （補足）ゴールの段階 A. 農業と石川の人口減少解決の関連性に関して理由を挙げられる B. 思考で終わらせるのではなく、実地調査に基づいた提案ができる C. 自分たちが関与した企画を部分的に試験実装し、その影響を評価することができる ３．議事録と司会の担当 ・議事録と司会の担当を、機会均等による各自の経験を積むためにまわしていく。順番は伊藤→赤澤→辰野さんの順とする。ただし、司会の役割は全員でサポートして進めていく。
次回ミーティング日程：2023 年 9 月 7 日（木）18:30~

2023 年 9 月 7 日　19 時 30 分　　～　　21 時 30 分
第 3 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、辰野、神谷
記録者：辰野
審議（活動）内容と結果 １．ゴール 1 についての議論 →いくつか答えになるようなものを作成した。 ２．質問内容の作成 →農泊の主催者、体験者などの目線で質問を考えたが、もう少し考える必要があるため、次回も議論する。 ３．農泊場所の決定 →古民家「梢」に決定し、取材許可のメールを送った。
次回ミーティング日程：2023 年 9 月 15 日（木）19:30~

2023 年 9 月 15 日　19 時 30 分　　～　　20 時 15 分
第 4 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、神谷
記録者：伊藤
審議（活動）内容と結果 1.　交流 　電話内容 　・プランの予約 　・スマート農業をしている農家さんと協力して農泊をすること 　　に対するアドバイスをいただくこと 　iot 案山子に取り組んでいる株式会社 farmo に取材可させていただけるか確認のメールを送ること ２．今後の活動 以下のゴールの段階を踏まえて、 A　→　現在保留 B　→　実際に農泊を行う　10 月 7~9 日予定 　　古民家こずえ　株式会社 farmo への取材 C　→　これからの意見交流によって、企画を練っていく
次回ミーティング日程：2023 年 9 月 27or 29 で後日決定

2023 年 9 月 27 日　19 時 30 分　　～　　20 時 15 分
第 5 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、赤澤、神谷
記録者：赤澤
審議（活動）内容と結果 1.古民家こずえ様に農泊する日程の調整　電話担当：伊藤さん 候補 11 月 11 日、12 日、 25 日、26 日 ○内容 ・予約の確認とともに、自分たちの今後の活動も含めて取材を改めてしても良いか 2.仲介の件 ・仲介はしていただくという形に決定 →ただ、どういう形なのか、連絡だけなのか、もしくはセッティングしていただけるのかは聞いた方が良い 3.IoT かかしの質問事項、それをどうしたいのか ○質問事項 ・どういうことをしているのか ・参加した体験談、可能性、過程、とりいれようと思ったきっかけ ・導入前のスマート農業のイメージ他 連絡の取り方 メール担当：赤澤 →一度フォーム様を通して、実際に体験した農家さんに連絡を取ってもらうという形にする 4.成果、次の段階 ・イベントを実施するうえで、どのようなイベントを実施したいのかという話し合い（10 月中に考えをまとめていきたい） ・そのイベントが実現可能なのかを頭に入れる ・質問、質問して回答された内容をまとめる ・自分たちが携われる段階で、元からある農泊先で、プログラムを作りイベントを実施したい →場所の確保：古民家こずえ様が有力候補のなので関係性を大事にしていきたい ・どういう農泊、体験内容にしていきたいのかを考える
次回ミーティング日程：9 月 30 日までに決める（10 日までの予定を決める） 　　12 月の予定を先方に聞き、日程を合わせる

2023 年 10 月 4 日　19 時 30 分　　～　　21 時 30 分
第 6 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、辰野、神谷
記録者：辰野
審議（活動）内容と結果 1，農泊で実現したい具体的なイベントの考案 2，こずえさんとの連絡確認 3，スマート農業周知し疑似体験してもらえるようなゲームを作る「赤澤」 　HP の作成「赤澤」 4，全体ミーティングが 10/25 開催決定
次回ミーティング日程：後日ラインにて決定

2023 年 10 月 1 日　19 時 30 分　　～　　21 時 15 分
第 7 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、辰野、神谷
記録者：伊藤
１,活動の振り返り 　テーマ決め 　農泊の場所決め 　ict を取り入れている農家様への取材 　具体的なイベントの模索 　広報のための hp 作成 ２,10 月 25 日交流会の質問事項 　自分たちの活動を実現可能にするために何が必要か 　農業のイメージ 　Hp 以外のアプローチ 　行政への質問の仕方 3,farmo 様への連絡 　取材対応可能な日程の問いあわせ 次回の活動 　交流会への最終確認
次回の活動日：後日決定

未来プロジェクト　議事録

2023 年 10 月 23 日　19 時 30 分　　～　　21 時 00 分
第 8 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、辰野、神谷
記録者：赤澤
１,連絡事項 　・古民家こずえ様への交通手段 　・株式会社 farmo 様への日程の確認、農家様へのご都合が合えば出席 OK 　・26 日午後フリーになれば IoT かかしの現場を見られるのではないか。→こずえ様の連絡がきしだい、株式会社 farmo 様へ確認（農家様との交通手段） ２,交流会に向けた発表資料の推敲 　→質問の内容を詰めたり、スライドの訂正など 次回の活動の確認 　・交流会のまとめ、それぞれの連絡確認
次回の活動日：10 月末日までに決定

2023 年 11 月 1 日　20 時 15 分　　～　　22 時 15 分
第 9 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、辰野、神谷
記録者：伊藤
古民家こずえ様へ送るスケジュール表の決定 ・運営管理

・役割分担表
・タイムスケジュール
・備品管理表

次回の活動の確認
　・古民家こずえ様からのリアクションを受けての話し合い

次回の活動日：11 月 8 日

2023 年 11 月 10 日　21 時 00 分　　～　　23 時 00 分
第 10 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、神谷
記録者：赤澤
○11 月 10 日 18 時半から行われる IoT かかし様と農家様に送る質問の決定
・農家様への質問と株式会社 farmo 様への質問事項は分ける

○行政へいつ行くのかの日程の調整

○古民家こずえ様へいくつから質問した際の共有事項

次回の活動日：11 月 20 日

2023 年 11 月 15 日　19 時 45 分　　～　　20 時 15 分
第 11 回ミーティング
参加者：赤澤、伊藤、神谷
記録者：神谷
審議事項
1．県の農業関連組織、公益社団法人いしかわ農業総合支援機構への取材日程
　11 月 29 日（水）13 時～19 時、12 月 20 日（13 時～19 時）を候補日に設定、神谷が依頼　　をすることとなった。

2．ファーモさんへの取材後の対応
　各自の夢について記載し、送付することとなった。

3．古民家こずえ様の宿泊、IOT かかしの現地取材
　都合により宿泊は伊藤、辰野が参加となった。また、IOT かかしの現地取材は先方からの返信なく、取材は困難の可能性が高いことが共有された。

次回の活動日：11 月 21 日　21 時～
　　古民家こずえ様宿泊の直前打ち合わせ

2023 年 11 月 21 日　21 時 00 分　　～　　22 時 15 分
第 12 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、神谷
記録者：伊藤
古民家こずえへの宿泊にむけての確認
・こずえ様、農家様への質問事項
・タイムスケジュール
・持ち物確認
次回の活動の確認
　・農泊の振り返り

次回の活動日：11 月 7 日

2023 年 11 月 29 日　21 時 00 分　　～　　23 時 00 分
第 13 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、神谷、赤澤
記録者：辰野
農泊体験の情報共有と振り返り

今後の活動方針
・梢様や熊野地域協議会の方々に一緒にできることを提案。
　→お米のブランド作成
　　HP 作成
　　オンラインショップの作成

次回の活動日：12 月 6 日

2023 年 12 月 6 日　21 時 00 分　　～　　23 時 00 分
第 14 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、神谷、赤澤
記録者：赤澤
○こずえ様に何かしらの提案をさせていただく
・熊野地域ブランドの作成
　顔の見えるお米「各作り手の特色、栽培方法を活かした販売」
　・コンセプト→地域の農家様のお米をセットで買ってもらいたい
　・どこで売る？県内外問わず、イベントあるのか
　　→オンラインショップ「作成」
　　→ブース出店「産業会館」
・熊野協議会 HP と連携＋管理をお願いする
　自分たちの活動、目標、成果をまとめた HP を熊野協議会やこずえ様の HP に乗せてほしい
　問題点
　・管理できるのか
　・公開ができない可能性がある
・farmo 様と協力「かかしの提供？」
　熊野地域の現状「スマート農業を進めたいけど、発展途上」を farmo 様にアプローチする。オペレータの確保
・オンラインショップの作成
　熊野地域の伝統工芸品や、特産物を取り扱う
・井上さん×こずえ様の農泊「お話込み」
　スマート農業について解説や紹介を体験一覧の一つに

○やること
株式会社 farmo 様とこずえ様にメールで連絡

次回の活動日：12 月 13 日

2023 年 12 月 13 日　21 時 00 分　　～　　22 時 40 分
第 15 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、神谷、赤澤
記録者：辰野
○活動内容
・12 月 20 日の県庁取材についての計画、時間配分、内容について検討した。
　集合場所は金沢駅にて、タクシーを利用、事前にミーティングすることになった。
　15 時から 16 時が取材の約束の時間である。
　プレゼンテーション 20 分程度
　フリーディスカッション 40 分程度
　事前に、石川県の成長戦略について確認することにした。

次回の活動日：12 月 17 日（延期）

2024 年 1 月 14 日　9 時 00 分　　～　　10 時 40 分
第 16 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、神谷、赤澤
記録者：赤澤
○活動内容
・成果報告書のおおまかな内容のまとめ
・時系列のまとめ
・諸団体へのインタビューのまとめ

○次回までにやること
各団体へのインタビューのまとめ
1 動機　目的
2 内容
3 得られたこと　発見　考察など
を各自担当箇所をまとめてくる

次回の活動日：1 月 16 日（延期）

2024 年 1 月 23 日　19 時 00 分　　～　22 時 00 分
第 17 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、赤澤
記録者：神谷
○活動内容
・成果報告書の作成作業

次回の活動日：1 月 30　日

2024 年 1 月　20 日　18 時 00 分　　～　22 時 00 分
第 18 回ミーティング
参加者：伊藤、辰野、赤澤
記録者：神谷
○活動内容
・成果報告書の仕上げ
　→今後への提案を作成

次回の活動日：2 月 5 日

石川県の子育て支援・住みやすさのPR活動

チーム名　　TMON
指導教員　　金沢工業大学　工学部　環境土木工学科　准教授　花岡 大伸
参加学生　　・金城大学　医療健康学部　理学療法学科　３年　東海 天音
・金沢大学　人間社会学域　経済学類　１年　南雲 歩
・石川工業高等専門学校　建築学科　４年 森田 はるか
・金沢工業大学　工学部　情報工学科　２年　岡田 来波生

1. 活動の成果要約

本チームは未来テーゼ「2050 年における石川県の人口、100 万人。」を達成することを目的に、「石川県の子育て支援・住みやすさをアピールする」というアプローチで活動を行った。本活動では、現在問題となっている「若者世代の減少」、「出生率の低下」に着目しチーム全員で活動に取り組んだ。活動を始めるにあたり、石川県の子育て支援制度について調べ、石川県は全国的に子育て支援が充実していることが分かった。実際に「いしかわ結婚・子育て支援財団」に訪問し、石川県独自の支援や子育て事情について聴取した。そこから私たちは石川県が行っている子育て支援をみんなに知ってもらえるような PR 活動を行った。

2. 活動の目的

活動の目的は 2 点ある。1 点目は、未来テーゼの取り組みとして、石川県の魅力や行われている子育て支援や住みやすさについて知り、発信することである。我々のチームではこの解決案を実施して、石川県の魅力を発信するとともに、継続して住み続けてもらえるようにすること、また他県に対しても情報発信等を行い他県からの流入人口を増加させることが本活動を実施するにあたっての活動目的（ゴール）である。

2 点目は学生の成長についてである。自己管理する力・計画立案する力・他者とコミュニケーションする力などの社会で求められる学力以外の能力を高められる課題解決型のグループ活動とすることである。また、個々の意見を活かしながらも１つのチームとして協働し、自分たちのアイデアを実践に落とし込む過程で、学生に様々な気づきが得られることを目的とする。

3. 活動の内容

<u>〇活動の概要</u>

Zoom を活用してオンラインミーティングや、対面でのミーティングを週に 1、2 回程度行った。Miro を活用してマインドマップを行い、ブレーンストーミングによって、アイデア出しとアイデアの整理、活動方針の決定を行った。Google Drive や LINE を共有して、作成データの保存と管理を行った。

(https://image.pngaaa.com/333/5137333-middle.png)

(https://www.webex.com/content/dam/wbx/us/images/rebrand/integrations/miro-logo.png)

〇活動記録

5 月	未来プロジェクトメンバー顔合わせ
6 月	ミーティングを重ね、個々のアイデアに対してのディスカッション
7 月	中間発表会、3 つのチームに分かれる
8 月	チーム「TMON」として活動を開始、活動方針の話し合い 案の創出（マインドマップを用いてのアイデア出し）
9 月	方向性の決定 石川県で行われている子育て支援についての情報収集
10 月	担当者へのアポ取り、インタビュー内容の検討 いしかわ結婚・子育て支援財団に訪問
11 月	PR 活動方法についてのディスカッション 動画構成の検討
12・1 月	動画作成 最終報告会に向けての発表資料作成 成果報告書作成
2 月	石川未来会議にて成果報告会を実施

写真：活動風景

(1)個々のアイデアの共通点や相違点からチームの方針決定

東海：ショッピングモールを利用した子育て支援

子育てをする人にとっての障壁として精神的な不安や身体的な負担が挙げられた。そこで、小さな子供を連れての外食がしやすかったり、子供用品や食品などをまとめて購入することができたりする子育て世帯に対するショッピングモールの特徴に注目した。具体的な案として、SNS やチラシ等で宣伝し、ショッピングモールで子供向けのイベントを開催、その後アンケート調査を行いイベントの重要性を図る取り組みを提案した。これにより、子育てをする人にとっての不安や負担を減少させ、出生率を増加させることで結果的に石川県の人口を増やす狙いがある。

森田：学生のための就業支援

石川県は人口当たりの高等教育機関が全国第二位であり、全国的に見て大学進学等による転入者が多く、有効求人倍率は全国第三位で求人数も多い。しかし、大学卒業後の就職等を機に県外への転出が多いのが現状である。そのため具体的な案として、石川にいる高校生・大学生をターゲットとして地元企業を知る機会を増やす取り組みを提案した。これにより、進学とともに石川県に転入してくる学生が多いことを活かして、若いうちから石川の企業に触れる機会を多く作ることで石川県に就職する人を増やすことになり、結果的に石川の定住者を増やす狙いがある。

南雲：シン・保育園

石川県の空き家を利用して路面店形式やテナント形式を融合させ、その中に保育園を作る。この提案の目的は石川県に住む人や幼稚園・保育園に通う子を持つ親の、日々のストレス緩和や親同士のコミュニケーションの場の提供、休憩スポットの提供などである。

岡田：家族の家族による家族のための石川づくり

背景として人口維持のためには少子高齢化対策がカギとなり「個人ではなく世帯で考えるべき」である。少子化対策に対してフランスが行った「第 3 子以上の子を持つ家族が有利」やスウェーデンが行った「両立支援政策などを実施し、子育ての負担を軽減させる」などが成功例である。このことから、子供を持つ家族に向けた政策が少子化対策には重要である。最終目標である「2050 年の石川県総人口 100 万人」を達成するためには家族で住み続けたいと思える街づくりが大切であり、それを達成するには家族が住んでみたいと思える街づくりが大切である。そのために石川県でなら子育てしてみてもよいと思える環境づくりが大切であると提案した。

(2)チームのテーマとチーム名

それぞれの中間発表でのアイデアや意見を集約した結果、「石川県の子育て支援政策や子育てのしやすさについての PR 活動を行う」という方向性に決定した。またチーム名は 4 人の学生メンバーの頭文字のアルファベットを繋げて「TMON」に決定した。

(3)活動過程

8 月 24 日（しいのき迎賓館）

内容：人口増加するために様々な視点から案を出す

＜就職＞
ターゲットを大学生とした。
課題として、大学進学時の転入者が多いため一時的に人口は増加するが、就職で県外へ流れるため、人口は減少する。これらの解決案として企業説明会には学生が参加しない傾向があるためクーポンを配布したり、旅行を兼ねて企業説明会をプラスしたりするプランを行うなどの案が出た。
＜出生率＞
ターゲットを出産前後の方とした。課題として出生率が低い現状があり、それに対する解決案で子育てしやすい街をつくる案が出た。
＜人口問題を解決するための極論＞
難民など世界の人を受け入れる・留学生に石川で就職してもらう・観光客が住んでみようと思えるためのお試しプランなどを行う案が出た。
＜理想の街とは＞
都会にないものをつくったり、交通の不便性解消やきれいな街、企業誘致、ライブなどができたりするドームがある、給料が高くて物価が安い、おいしい食べ物、などの意見が出た。
＜どうやったら石川に住んでもらえるか＞
入社して 1、2 年好きな支社へ異動させ、都会を飽きさせる・住居は他県にあるが住民票は石川県にあるなどの意見が出た。
＜入社したい企業の条件＞
アクセスがいい・給料がいい・福利厚生・ブランド力が高い・休みが多いなどの意見が出た。

8 月 30 日（Zoom）
内容：個人のアイデアからマインドマップを行い、案を出す
・空き家をリノベして、移住者に抽選でプレゼント
・大学の無償化
・子育て世帯の有給日数増加や定時の前倒し
・ブランド肉の開発
・３人の子供世帯に新居をあげる
・移住を希望する人への優遇制度を作る
・観光のプログラムに、移住するための情報を提供する場を組み込む
・お金持ちを優遇する政策を立てる
・高校生、大学生を保育園に就職させる　　などの案が出た。

9 月 13 日（Zoom）
内容：石川県の子育て支援政策について
＜石川県内で行われている政策＞
・石川県は保育士普及率第 6 位
・待機児童 0 人
・女性就業率全国 2 位→女性が働きやすい
・病後児保育料無料

・親子交流事業　赤ちゃん登校日
・不妊治療費の助成
・出産祝い金
・出産手当金（妊婦が就労している場合）
・毎月 19 日を育児の日としており、さまざまな特典を得られる
・育児用品のリサイクルショップ
・短時間勤務制度（3 歳未満の子供を養育する男女労働者）
・中学校卒業まで月 1 万円程度支給される
・こども医療費の軽減　金沢市では中学 3 年生までは助成金を出す

＜他県で行われている政策＞

宮城県　どこでも授乳室プロジェクト　外出先での授乳室不足を改善
兵庫県　胎児の多い家庭に対する外出支援　ベービーカーやチャイルドシートのレンタル
福井県　ベビサポトイレ　男性トイレにおむつ替え用のベビーベッドやベビーチェアを設置
埼玉県　埼玉子育てウェブ　子育てに取り組むあらゆる人のニーズに対応したサイト
　　子育てに関する情報を発信
愛媛県　保健師や保育士が家庭訪問を行い高度な育児を行う
鳥取県　由利浜家族の日　家庭内での役割分担を見直し仲を深める
東京都板橋区　すくすくカード事業
　　使用することでヘルパーの訪問などのサービスを無償で受けられる
岐阜県　さたパパサロン　父親の子育ての理解を深める
香川県　おやじの会　PTA の父親版

写真：しいのき迎賓館でのミーティング風景

9 月 27 日＆10 月 4 日
内容：いしかわ結婚・子育て支援財団への質問を考える
＜支援センターに質問する内容＞
・石川県独自のアピールしたい子育て支援政策は何か？
・現状、どのような方法で子育て支援を PR しているのか？
・どれくらいの人が各支援を利用しているのか？
＜自分たちのやりたいこと＞
・石川県の子育て事情を全国に知ってもらいたい

10 月 23 日（いしかわ結婚・子育て支援財団）
内容：いしかわ結婚・子育て支援財団に訪問し、以下の内容について質問を行った
質問①石川県独自のアピールしたい子育て支援政策は何か？
　　A. プレミアムパスポート
・現状、どのような方法で子育て支援を PR しているのか？
　　A. LINE を利用して、プレミアムパスポートやイベント情報を掲載している。
・どれくらいの人が各支援を利用しているのか？

A.	第 3 子以上世帯用	14,357 世帯（発行率約 100%）
	第 2 子世帯用	33,574 世帯（発行率約 86%）
	計	47,931 世帯

10 月 25 日（四高記念館）
内容：各チームの進捗状況の共有ミーティング
　学生間交流や相互チームの進捗の確認を目的として各チームが集まり共有ミーティングを行った。そこで現時点でのチーム発表を行い、以下の点について意見をいただいた。
・顔出しのほうが親しみやすい可能性あり
・見た人を次のステップへ進めさせるには？
・市や県の人たちとスムーズに連携がとれたら理想的だ

11 月～12 月
内容：動画作成案の考案と動画作成
15 秒から 30 秒のなかで印象に残る動画を作ったほうがよい
大学生らしい内容の動画
最終報告会で動画作成の裏側を撮った動画を作成
自分たちの考えた政策を動画として作成する

チームの思考図式化

プレミアムパスポート

住みやすさランキング１位

待機児童ゼロ・マイ保育園

PR 活動

支援や制度を利用すれば、
もう一人子供を産んで育てられるかも…

石川県に引っ越して
子育てをしようかな…

人口増加

4. 活動の成果

〇取り組みの成果

石川県の子育て支援が全国的にみて先進的であるということが分かり、これらの政策をまとめてPR活動を行うことが人口維持・増加に有効と考えた。いしかわ結婚・子育て支援財団にインタビューを行い、子育て支援についての現状を深堀し、私たちも現在の政策について理解したうえでPR活動となる動画の作成を行った。これらの活動により石川県の子育て支援政策や子育ての現状を理解することができた。

学生の成長については、活動を通して目標達成のために自身の思考や行動を管理し、計画を立案し実行する力を高めることができた。しかし Zoom などを用いたオンライン会議ではコミュニケーションが活発に行えないことが多々あった。そのため活動後半では主に対面での活動を行い、積極的にコミュニケーションをとることにより各会議を有意義なものにすることができた。

〇今後の課題

この１年の取り組みで、石川県の子育て支援政策について知り、いしかわ結婚・子育て支援財団に訪問し石川県の子育ての現状や政策内容について理解できた。しかし、クオリティの高い動画作成や影響力のあるPR活動を行えなかった。実現には「動画作成技術」と「多くの人の目に触れる場での宣伝活動」が必要であり、これらをどのように解決していくのかの検討を続けていくことが必要である。

5. 謝辞

今回の活動を行うにあたり、公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団理事長　細川悦子様、館長　北山勝之様にご協力いただきました。ありがとうございました。

6. 活動に対するコーディネーターからの評価

今年度は７月以降のチーム活動となり、オンラインと対面の併用で活動を行った。議論が進まない時期もあったが、最終的に学生が主体となり１つの目標に向かって活動できたのは良い経験になったと思います。また、成果報告書や発表資料を作成する過程において、学生が成長していく姿も見ることができました。最後に、終始明るい雰囲気でプロジェクトを進められたことが大きいと思います。アイデアも学生ならではのもので、本活動が学生にとって貴重な財産になれば幸いです。

ISHIKAWA Center
— イベントから生まれる出会いと定住 —

チーム名　Fusion node
指導教員　金沢工業大学　建築学部　教授　山岸 邦彰
参加学生　・石川工業高等専門学校　建築学科　４年　大菅 琴和
・石川工業高等専門学校　建築学科　４年　室岡 姫奈
・金沢工業大学　情報フロンティア学部　３年　宮本 佳奈
・金城大学　医療健康学部　３年　栗山 佑輔

1.　活動の成果要約

チーム Fusion node は、未来テーゼ「2050 年における石川県の、人口 100 万人」の達成を目標として「石川県に出会いの場を提供する」ことにより、安心して子供が生まれやすく住みやすい環境を作ることを模索した。少子化の主要因として未婚率の上昇が挙げられる。さらに、婚姻後に子供を作ることが自由意志の側面が大きく、社会規範としての意識が低下している。そこで、子供ができることによる幸福度を高めるために、老若男女問わず出会いの場を提供し、人的交流から生まれる幸福感を内外に表出する場の提供を考えた。金沢駅から金沢港へ延びる 50 メートル道路を石川の未来軸と捉え、金沢港クルーズターミナルと商業施設に挟まれた土地に、出会いの場を提供する ISHIKAWA Center を建設する。大中小様々なイベントを実施できるほか、同人同士の物品販売、ショッピングセンター、物流施設などが併設されている。県外、国外からの来客数を上げるためのアクセス手段を高度化して、関係人口の増加につなげる。そして、石川県の魅力に気づき、定住の可能性を高める。子連れが楽しめる施設であり、子供を作るきっかけになればと考えている。

2.　活動の目的

第一義として、本プロジェクトの未来テーゼに対する率直な提案を行うことが本活動の目的である。現在進行している少子化がこのまま続けば、石川県の人口構成に大きな歪みが生じ、2050 年に大きな社会問題となることはほぼ必定である。この現実に起きる将来のために、学生がその対策を練ることは意義深い。石川県の人口減少の背景として、未婚率の上昇、大学を卒業した学生の県外流出、などがある。結婚願望を高め、石川県に定住したいという魅力ある社会交流が行われていないことに大きな原因があると考えている。その社会交流を高める場を提供し、石川県からの流出を減らし、他県からの流入を促すことのできる企画提案をすることが、本活動の目的である。

第二義として、この活動を通して、Fusion node メンバーの各人が人口問題に正面から向き合い、石川県の将来のためにどのようなことができるか、様々な調査やグループワークからアイデアを捻出できる力を養うことも、本活動の目的である。

3.　活動の内容

3.1.　活動のスケジュールと骨子

第Ⅰ期（7 月 22 日～9 月末）、第 II 期（10 月 1 日～12 月末）、第 III 期（1 月）に期を分けて概説する。

＜第Ⅰ期（7 月 22 日～9 月末）＞

2023 年 7 月 22 日に実施された中間報告会の結果を経てチーム編成が行われたが、当初より目指す

方向性に違いが見られたため、中間報告会の直後にチームメンバーが実践したいことを言い合い、共通点を探るところから始めた。その時、以下のことを決定した。

[1] 週に1回集まること

[2] Web会議システム(Zoom)を主体とするが、Discordなど新たなSNSツールの使用を模索する。

基本的に夏季休暇中であったため、参加可能な学生のみ参加して議論を進めた。

月日	会議体	主な議題
7月22日	対面	チームメンバー自己紹介、夏季休業期間中のプロジェクトの進め方
8月7日	Zoom	フリーディスカッションが行われた。 一般的なアンケートでは、子供を生まない理由の筆頭に経済的に困難であることとされているが、経済的な理由が全てではないことを確認。30年ほど継続するデフレーションが消費意欲を減退させ、将来的に希望が持てていないことが原因。
8月21日	Zoom	出席者なし
8月27日	Zoom	フリーディスカッションが行われた。 各自の意見を持ち寄る。町家間に関連を持たせて家族連れなどが訪れやすい環境を作る案、経済の活性化が先であり、ショッピングセンターなどにおいて子供連れが得になるような仕組みの案、などが議論された。
9月4日	Zoom	フリーディスカッションが行われた。 石川県自体が住みやすい街であることをアピールすることも大切との意見が出た。観光客が大きな旅行鞄を持って移動する姿が大変そうに見える。無料のロッカーなどを提供する案、また他にも、子供の夏休みの自由研究の手伝いを商店街が協力する等の案、があった。
9月11日	Zoom	フリーディスカッションが行われた。 町自体が活性化していないとそもそも町に永住したい気持ちが薄れることから、互いに得が生じるような相互関係を築けることが大事ではないかと議論された。沖縄県のような雰囲気、自由研究お助け隊、過剰包装解消による交流機会の増加（ネット通販が減少)、など。
9月26日	Zoom	出席者なし

＜第II期（10月1日～12月末）＞

夏季休業期間の終了が高等教育機関ごとに異なり、学期の開始日時がずれたこと、始業後にそれぞれの高等教育機関における活動が活発化したこと等により、開始がやや遅れた。

月日	会議体	主な議題
10月21日	Zoom	フリーディスカッションが行われた。 これまでの議論の中で、市民同士が交流できる場が必要であるとの結論に達した。交流のきっかけとして、物品の売買が主となる「もの」ではなく、「こと」を提供することが大切と考えた。
10月25日	対面	学生交流会 チームAの辰野凌乙さんの働きかけにより、各チーム（A～C）でこれまで行われた議論を発表し合い、互いにインスピレーションを高める

月日	会議体	主な議題
		学生交流会が行われた。この場において、チーム C として交流できる場の提供を中心に、今後考えていくことを発表した。
10 月 28 日	Zoom	フリーディスカッションが行われた。 学生交流会での状況を Fusion node と共有して、今後の提案作成のフリーディスカッションを行った。交流施設を作ることに決めたが、どのようなプログラムとすべきか、それが少子化対策に繋がるか、などを議論した。
11 月 4 日	Zoom	フリーディスカッションが行われた。 これまで議論のあった経済性、すなわち、単に人が集まるだけではなく、消費行動も重要であることが議論され、交流施設に付帯すべき機能や施設について議論された。また、石川県内の移動の問題として自家用車が主流であることが問題視された。県外からの来客者数を増加させるためには、自家用車に頼らない多様なモーダルシフトが必要であるなど、議論があった。
11 月 11 日	Zoom	出席者なし
11 月 18 日	Zoom	フリーディスカッションと宿題の割振りが行われた。 議論は進んできたがプロジェクトとしての活動を考える必要がある。交流施設を具現化する必要がある。また、既存の交流施設（イベント施設など）を調べる必要がある。これらを背景として、各自に宿題を割振り、より具体的な提案を次回以降持参するよう指示があった。
11 月 25 日	Zoom	宿題の公表とフリーディスカッションが行われた。 宿題を持ち寄った。全員の成果をまとめた結果、金沢港のクルーズターミナルの近くの土地に約 150、000 m^2 のイベント、ショッピングセンター、および物流倉庫を兼ね備えた施設のイメージ案を固めた。
12 月 2 日	Zoom	宿題の公表とフリーディスカッションが行われた。 前回案をブラッシュアップするための議論が行われた。現時点は国有地、私有地となっているが、土地収用ができるものと考えて建築プログラムを考えた。また、実際にこのプロジェクトを具現化することは困難であるため、社会実装はできないが一般県民の方々にアンケートを行って、本提案の是非を問うことを決定する。
12 月 9 日	Zoom	宿題の公表とフリーディスカッションが行われた。 本提案を有識者の面前で公表して、本提案の是非を問うことを検討した。有識者は大学コンソーシアム石川の活動に対して全面的に協力をしていただいており、実業家の集まりである金沢青年会議所に依頼することを決定した。提案書のブラッシュアップをすることになった。
12 月 11 日	Zoom	宿題の公表とフリーディスカッションが行われた。 アンケートと金沢青年会議所に対するプレゼン資料について議論された。アンケートはほぼ最終形となり、大学コンソーシアム事務局に配信依頼をすることを決定した。プレゼン資料については様々な改良点が指摘され、持ち帰り宿題を決めた。
12 月 18 日	Zoom	宿題の公表とフリーディスカッションが行われた。

月日	会議体	主な議題
		明後日に実施される金沢青年会議所へのプレゼンテーションの打ち合わせ、およびアンケート依頼について最終確認を行い、翌日（1 月 19 日）アンケート依頼文を配信することとなった。
12 月 19 日		アンケートの実施
12 月 20 日	対面 於：金沢青年会議所	提案資料のプレゼンテーションとディスカッション これまでに Fusion node が整理してきた内容を、学生が金沢青年会議所の方々へプレゼンテーションした。この内容については後述する。
12 月 25 日	Zoom	宿題の公表とフリーディスカッションが行われた。 冬期休暇に入る直前に、冬期休暇中の宿題を整理した。有識者へのヒアリングとして石川県庁の方々に、プレゼンテーションを行うことを決定した。

＜第 III 期（1 月）＞

月日	会議体	主な議題
1 月 8 日	Zoom	コーディネーターが欠席したため会議はなし。
1 月 15 日	Zoom	出席者なし ただし、メール会議を実施。石川県庁へのヒアリングは、石川県自体が大学コンソーシアムの参加団体であり、石川県が本プロジェクトの審査側に回る可能性があることから、石川県庁側からフェアではないとのことで断りの連絡を受けたこと、その代替として金沢市へのヒアリングに変更したが、Fusion node への連絡がなかったことにより、金沢市へのヒアリングも中止することを伝えた。
1 月 22 日	Zoom	今後のスケジュールと宿題の確認を行った。 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震の発生により、事務局側のスケジュールに変更があった。成果報告書の提出が 1 月 30 日となっており、報告書の完成を急ぐことを確認した。割振りを行い、適宜割振りを次回までに完成することを確認した。
1 月 29 日	Zoom	成果報告書の確認と今後の活動について議論した。 成果報告書案を提示して、内容を確認した。また、2 月 17 日の成果報告会における発表者および発表内容について議論を行った。

3.2. 調査方法

プロジェクトの総額が数 100 億円に達するため、社会実装は困難である。そのため、Fusion node が作成した提案を有識者に聞いて頂き、その実現可能性について調査する。また、一般の方々に対してこの提案の一部を示し、本提案に対する賛否をはじめ、本提案に関連する様々な仕掛けに対する県民の感覚をアンケートにより調査する。

3.3. 調査対象者

有識者として、民間を代表して金沢青年会議所、行政を代表して石川県庁を想定していた。しかし、3.1 節に示したように、石川県庁へのヒアリングは、石川県自体が大学コンソーシアムの参加団体であり、石川県が本プロジェクトの審査側に回る可能性があることから、石川県庁側からフェアではない

とのことで断りの連絡を受けた。また、その代替として金沢市役所を選定したが、市役所と Fusion node との日程調整が困難であるため、本報告書を記載している現在、市役所へのヒアリングは実現していない。

一般人を対象としたアンケートは、大学コンソーシアム石川の事務局を通して、関係する諸団体へ Web アンケートの実施依頼と URL の配信をお願いした。回答者が特定されないようにしているため、回答者（調査対象者）は不明である。ただし、基本的な属性から、一般 147 名、学生 104 名であることは分かっている。

4. 活動の成果

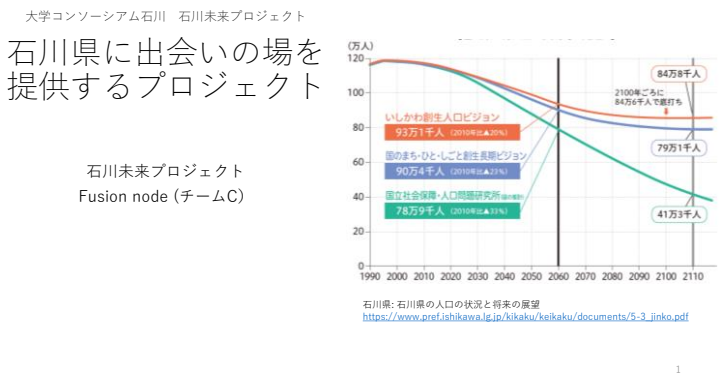
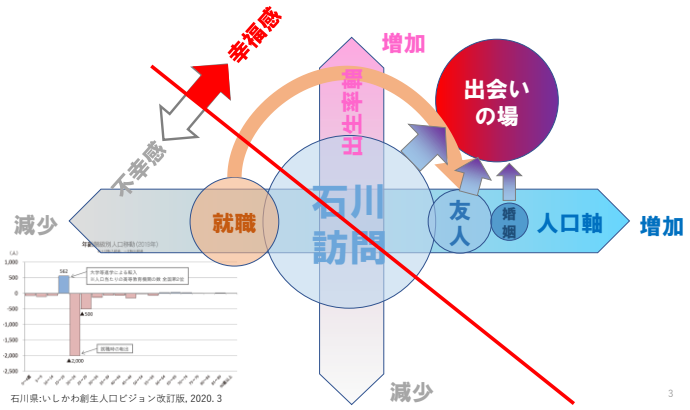
Fusion node の活動の主な成果として、(1) 提案、(2) ヒアリング、(3) アンケートである。これらに関する概要を以下に示す。

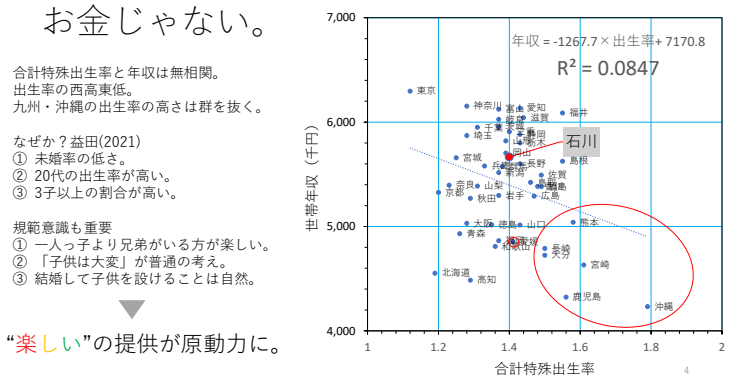
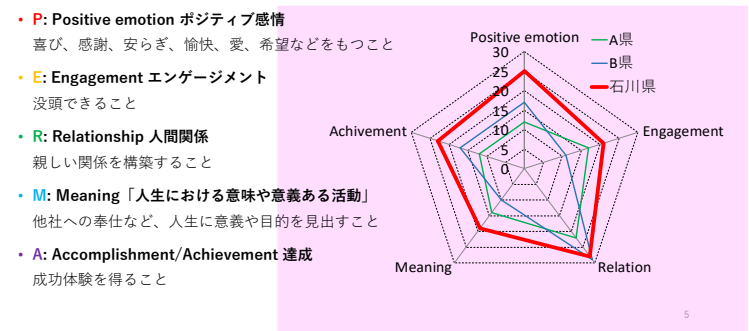
4.1. 提案の概要

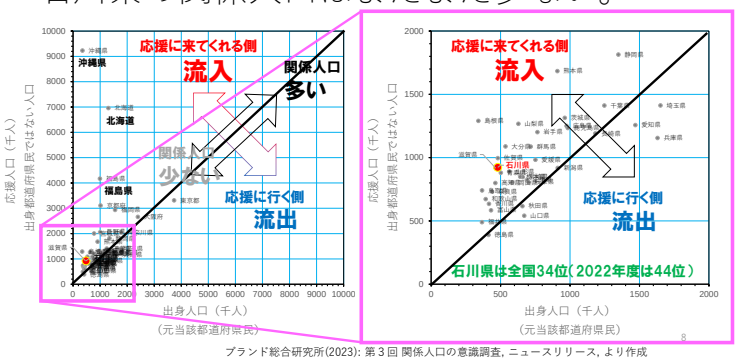
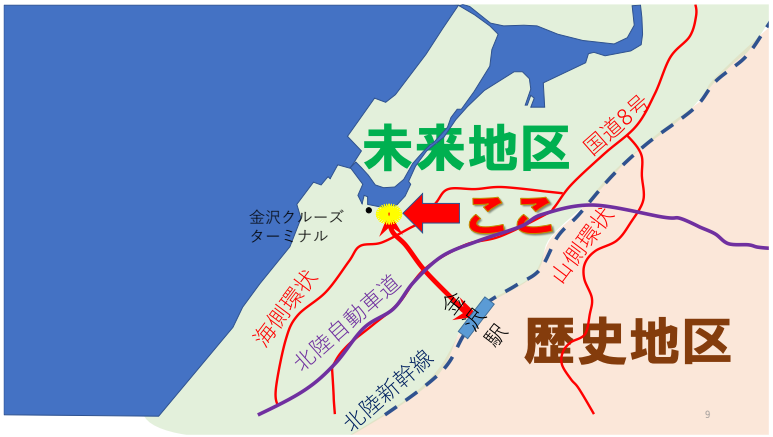
厚生労働省は 1 月 23 日、人口動態統計を公表し、2023 年 1～11 月の出生数は 69 万 6886 人であり、前年同期比で 5.3%減少したことを明らかにした。この数年は新型コロナウイルス感染症禍にあり、出生が控えられた傾向があるとは言え、この減少数は将来へ大きな問題を生じさせる可能性がある。未来テーゼ「2050 年における石川県の、人口 100 万人」の実現はさらに困難になったと考えられるが、現在対策し実行しなければ 2050 年の石川県は行政執行が困難な状況に陥るほど深刻な問題が生じるであろう。人口問題は今に始まった問題ではなく、現在の状況はかなり以前から予測されていた。しかし、対策を講じなくても、対策が実施されなくても、その時々の国民、県民に大過が及ばないため、人口問題が先送りされてきたと考えられる。2023 年 1 月岸田内閣総理大臣が、「異次元の少子化対策」、「日本のラストチャンス」などと訴えて、政府を挙げてこの問題に取り組むよう指示がされたが、目に見える効果はいまのところ見えない。

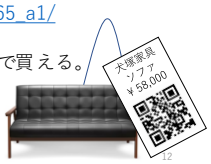
Fusion node はこのような官製対策には限界があると認識して、市民同士、県民同士、国民同士が官製対策に頼らずに心豊かな社会を形成することが必要であると考えた。また、税金の導入に伴う様々な圧力団体の暗躍など、市民、県民、国民が望まない形態に陥ることが懸念された。そこで、利権から離れ、市民、県民、国民が心から楽しいと感じることのできる「ことづくり」を基本に置くことを前提として、交流の中から得られる親近感、さらには恋愛感情へと発展し、この町や県に住むことへの楽しさや幸福感から安心して子供を生むことが出来る環境づくりが大切であると考えた。しかし、どのような交流をするのか、施設の建設費用をどこから捻出するか、施設の維持をどうするのか、参加者の食欲や物欲をどのように満たすか、など、様々な問題が浮上した。

そこで、金沢市公民館などの設置で行われている半官半民の考えを発展させて、広くステークホルダーの資金や資材の提供によりイニシャルコストもランニングコストも低廉にさせた新たな施設建設や運営の在り方を提案する。以下に、提案のコンセプトを図と共に示す。

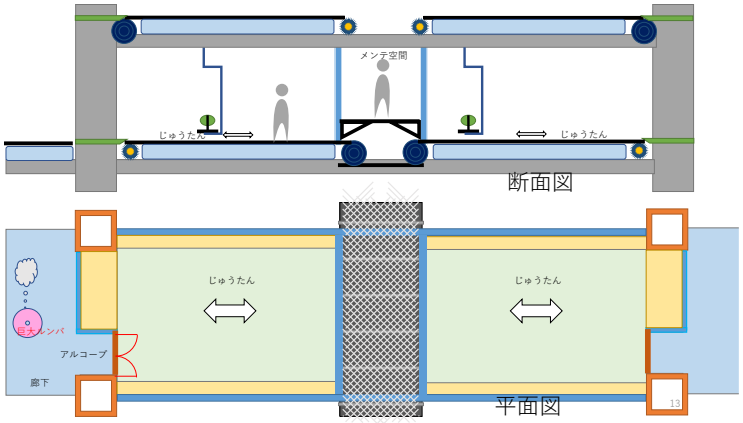
提案スライド	説明
	Fusion node というのはプロジェクトのチーム名でして、石川と他の都道府県、世界とを融合する結節点、という意味です。 石川未来プロジェクトでは 2050 年に、石川県の人口を、100 万人にするための方策を検討しています。こちらのグラフにあるように、社人研の予測では 2050 年に人口が約 87 万人となります。 2050 年は、私たちが 50 歳となり、もっとも働き盛りとなる頃ですが、このままでは石川県の経済的な魅力が低下して、予想以上の人口流失が生じると懸念しています。 私達は、沈滞した社会で 50 代を迎えたくありません。そのため、チームを結成して、ここに拙劣ながらご提案をさせて頂きたいと思います。
	この表は、ブランド総合研究所が今年公表した都道府県の魅力度ランキングです。 2023 年に石川県は 9 位となり、昨年より順位を 1 つ上げました。 上位の都道府県は、観光資源が豊富で観光客、すなわち、交流人口が多い都道府県ですが、石川県も健闘しています。 すなわち、石川県には交流人口を増やすポテンシャルがあることを意味します。 このポテンシャルを使って、次のような仮説を立ててみました。
	人口を増やす要素に、人口が多いこと、出生率が高いこと、が挙げられます。これらは両輪であり、両者を維持、さらには向上させることが必要です。 この図のように、横軸に「人口軸」、縦軸に「出生率軸」を取ります。石川県への交流人口を増やすことにより、石川県民との友人が増え、友人のつてなどを利用して婚姻関係が結ばれます。 このような好循環を生むためには、訪問したい、友人と楽しみたい、結婚後も楽しみたい、という様々なレベルの「出会いの場」が必要であると考えました。 一方、「学都石川」と言われるように、大学などが多い石川県は、18～22 歳の人口流入が増加します。しかし、就職時に他県へ流出し、その量は流入を上回ります。 そこで、「出会いの場」を通して、県外に就職した人々が、また石川県民と友人関係を構築して、石川県に戻ってくれる「うつわ」が必要と考えます。 そして、幸福感が石川県への定住を促すと考えます。 よく、収入が少ないから子供ができない、という報告を目にしますが、本当でしょうか？ 次をご覧ください。

提案スライド	説明
	この図は、横軸に合計特殊出生率、縦軸に世帯収入をとったものです。世帯収入が多いと出生率はむしろ減少しています。 よく見ると、沖縄をはじめ九州の各県は、世帯収入が低いにもかかわらず、出生率が高いことがわかります。 この図から、子供の数を増やすのはお金ではない何かであると言えます。 人間だれしも、辛い状況を好みません。夢がある、楽しさがある、などポジティブな考え方の方に寄っていくものではないでしょうか？ 有名な幸福度を表す指標としてパーマモデルがあります。
	ポジティブな感情、没頭できること、良好な人間関係、ボランティアや生きる意義、成功体験などのレベルが高いと、人は幸せを感じるというものです。 ポイントは、ここに金銭的な価値が含まれないことです。 人には 100 人 100 様の楽しみがあり、それを満たす行動を取りたがります。 経済価値から離れた次元で、新たな「ことづくり」を見出すことが重要ではないかと考えます。
	テレビゲームなどに没頭するのも楽しいと感じるのですが、その楽しみは 45 年前にゲームウォッチが登場するまで、存在しなかった楽しみです。 ゲームは、何万年も生きてきたホモサピエンスの DNA が初めて出会った快楽であり、流出する大量のドーパミンを止めるスイッチがありません。 このような「楽しみ」は人として健全な楽しみではなく、人生来の楽しみの原点に立ち返ることが、大切だと考えます。 これらの写真のように、何かの目的で人が集い、技量を高め合って、目標に向かって邁進する、これこそが、先ほどのパーマモデルに相応しいと考えます。 そこで、私達の大きな結論は、孤独を嫌い、人が集うためのイベントを増やすべきではないか、ということです。 イベントというと、コンサートのようなものを思い浮かべる方も居られると思いますが、これらの写真もすべてイベントに入ります。 このようなイベントを通して、交流人口、そして関係人口を増やしたいと考えていますが、関係人口を増やす上でいくつかの問題点があります。

提案スライド	説明
石川県の関係人口を増やす上での問題点。 • 石川県に大きなイベント会場がない。 　• 屋外ならばあるが、屋内ならば石川県地場産業振興センター(地場産)しかない。 • 西部緑地公園再整備事業として地場産を移転するが、アクセスが問題。 • 金沢歌劇座の代替地が見つからない。 • 歴史都市以外の軸を見いだせない。 • 富裕層向けビジネスが少ない。 　• クルーズ船来港を活かしきれていない。 • 金沢での宿泊日数は、1泊が55.7%を占める。なぜ、2泊できないか？ • 交流人口、関係人口の受け入れキャパシティが少ない。 • 関係人口が全国的にまだまだ少ない！ 7	まず、石川県には大きなイベント会場がありません。屋外ならば、いくつかありますが、屋内では地場産しかありません。 西部緑地公園に地場産を移転して、イベント施設を計画していますが、他県民はどのようにしてそこに行くのでしょうか？石川県の人は自家用車の移動を当然と思っていますが、都市圏の方々は公共交通機関の利用を当然と思っています。 次に、古くなった金沢歌劇座の代替地が見つかっていません。日銀跡地を候補としていますが、敷地が狭すぎる問題があります。 他にも、「歴史都市」以外の軸を見いだせないこと。 富裕層向けビジネスが少ないこと。 金沢滞在は 1 泊が多い、すなわち、1 泊程度の観光資源しかないこと。 交流人口、関係人口の受け入れキャパが少ないこと。 以上より、石川県の関係人口は全国的に見てもまだまだ少ないと言えます。 こちらの図をご覧ください。
石川県の関係人口はまだまだ少ない。  ブランド総合研究所(2023): 第 3 回 関係人口の意識調査, ニュースリリース, より作成	左の図は、ブランド総合研究所が今年 3 月に発表した関係人口の推計です。横軸が地元を離れた人の関係人口、すなわち、再び地元との協力関係を作っている人の数、縦軸が地元でない人の関係人口です。つまり、左上になるほど他県から応援に来てくれている、右下になるほど地元の県民が他県を応援している、ことを意味します。また、右上に行くほど関係人口が多いことを意味します。沖縄県、北海道は理想的と言えます。石川県はどこにあるでしょうか？密集した部分の拡大図が右の図です。 石川県は左上にありますので、悪くはありませんが、図の左下に位置しており、関係人口が少ないことが分かります。 では、どこに、どのような施設を作ったらよいか、を考えます。
 	新幹線を境として、南東側を歴史地区、北西側を未来地区として、50m 道路を軌道とした導線を強化します。 金沢港のすぐそばに提案する施設を想定します。 このことにより、手狭である歴史地区とは異なり、多くの人を呼び込むことができます。 また、金沢駅との間は山手線のダイヤ並みの公共交通機関を敷設します。 敷地の近傍には、金沢クルーズターミナルがあり、訪日外国人の目を楽しませることが出来るほか、2026 年度には「かなざわ総合市場」も完成します。この地区はますます賑わう場所と考えます。

提案スライド	説明
	こちらが敷地近傍の空中写真です。 現在は、工場が立ち並ぶ地域です。 敷地は約 10 万平方メートルです。 では、ここにどのような施設を造るか、まだ検討中ですので、あくまで現在の案としてご覧ください。
	石川県をかたどって建物が配置されています。 50m 道路の突き当りに雪吊をあしらった大小の展望タワーを設けるとともに、50m 道路を挟んで東西を結ぶ歩道橋を架橋し、金沢港側から、石川県のゲートをイメージさせています。 東西の敷地は、イベントホールとショッピングセンターを配置して、東側には物流センター、西側には歴史的まちなみを残したイベント兼ショッピングセンターとビジネス館を置きます。 恐らく、このような施設を構想すると、どこにそんなお金があるのか、赤字続きになるのでは、という疑問が涌くと思います。 そこで、次のような仕掛けをして、イニシャルコストもランニングコストも減少させられないか、感が手見ました。
All 無人＆スポンサーでできないか？ • ZEB (Zero Energy Building) • ZOB (Zero Office clerk Building) • ZIB (Zero Investment Building) • 寄贈者 に対する顕彰・一 定額以上の寄 贈者 に対して割 引優待券 • 町家の移築（移築費のみ） • 掃除不要な居室 • 歩くと発電する廊下 https://ene-fro.com/article/ef265_a1/ • 居室の内 装が宣 伝広告 • 全ての建材、装置、備品等がすべて広告付き・その場 で買 える。 • ランRunバスhttps://ran-run-bus.jp/info/⇒廃 止 	コンセプトは、無人運営、アンド、スポンサーでできないか？であります。 最近、建築には ZEB と言って、極限まで環境に配慮して、主に電気エネルギーの収支をゼロとする建物が作られつつあります。 それを真似して、ZOB、スタッフ人員のいない建築ができないか？ ZIB、投資を不要とする建築ができないか？ 社寺のように寄進を募れないか？ 町家を移築して、上屋を安価に調達できないか？ 清掃要員を不要とできないか？ 歩くと発電する廊下など、徹底的なエネルギーサイクルを作れないか？ 居室の内装を、ラッピングバスのようにすべて広告にできないか？ 全ての建材、装備品は商品見本であり、その場で買えるようにできないか？ などです。 バスも無料にできないかと思ったのですが、金沢ーかほく間を無料でつなぐランランバスというのがあるのですが、残念ながら R6 年 1 月をもって終了とのことです。これに変わる企画を考えなければなりません。 この図は、お掃除不要な居室の考え方です。

提案スライド	説明



居室内の絨毯が清掃時期になったらスクロールしてきれいになるという仕組みです。絨毯の上に物があるとスクロールができないため、椅子を天井から吊ることも一つのアイデアと思っています。
廊下には巨大なルンバのようなものを移動させます。

また、室内広告のイメージをこの図に示します。貴所（きしょ）のホームページから勝手に画像をお借りして作ってみました。
全面広告をあしらったラッピングバスのように、部屋中広告があり、利用者の目に触れるようにします。また、この部屋内にスポンサーの物品を置き、見本市のようにしてもよいし、それを即売することも可能とします。
肝心の事業収支についてですが、まだ案ですのでこれが実現するとは思いませんが、このような計画を考えています。
まず、事業支出からです。

事業収支　支出の部

費用項目	摘要	費用構成%	目標値%	概算費用(百万円)
施設関連費用	減価償却費	16	10	250
借地料		4	4	100
設備・備品関連費用	音響機材、照明機材、家具などの購入・レンタル費用	20	10	500
運営関連費用	スタッフの給与や労務費用	20	5	250
宣伝・広告費用	イベントの宣伝や広告	10	5	250
光熱水費	電気代、ガス代、水道代	10	3	150
諸経費	事務費、通信費、事業許認可に関連する費用	10	5	250
イベント用品調達費用	イベントに必要な費用	5	0	0
法的・経理関連費用	会計士、税理士、弁護士への報酬	3	3	150
リスク管理費用		2	2	150
合　　計		100	47	2,050

15

減価償却費などの施設関連費用、借地料など、10 項目を挙げてみました。
その費用構成がこのようになっています。施設関連費用、設備・備品関連費用、遠泳費用などが主要な項目と考えています。
これに対して、目標値がこちらのようになります。
圧縮できない費用もありますが、施設関連費用、設備・備品関連費用、運営関連費用を大きく削減できると考えています。
現在の規模から想定される概算費用がこちらになります。
総額で約 20 億円と考えています。
一方、事業収益がこちらです。

事業収支　収入の部

大項目	収容規模	単位	単価(百万円)	会場数	利用数	小計(百万円)
ホール使用料	3,000	席	1.5	1	120日(稼働率33%)	180.0
	1000	席	0.5	2	120日(稼働率33%)	120.0
	500	席	0.2	3	120日(稼働率33%)	72.0
	200	席	0.1	5	120日(稼働率33%)	60.0
	100	席	0.05	10	120日(稼働率33%)	60.0
	100	席未満	0	50		0.0
テナント料	30	坪	0.3	10	9.6ヶ月(空室率20%)	28.8
	15	坪	0.15	20	9.6ヶ月(空室率20%)	28.8
	10	坪	0.1	40	9.6ヶ月(空室率20%)	38.4
	5	坪	0.05	40	9.6ヶ月(空室率20%)	19.2
広告料						＋α
合　　計						**6,070**

16

3000 人規模のホールが 1 ホール、1000 人規模のホールが 2 ホールなど、大中小、様々なホールを準備します。これらの稼働率が年間の 1/3 とします。
このほかにも、110 室のテナント料の収入があります。空室率を 20%とします。
その他にも広告料、その他収入があると思います。
これらを合計すると約 60 億円の収入となります。
捕らぬ狸の皮算用とは言いますが、総工事費約 320 億円のうち、約半分がスポンサーということで、残り 160 億円を差額 40 億円で償却できれば、4、5 年でペイする勘定となります。

提案スライド	説明
	石川らしさをアピールする「石川センター」 ここに示すものは、全くの案でして、画像生成 AI で生成した絵ではありますが、このようなものを建ててみたいと思いませんか？ 人が集まり、趣味にふけるだけではなく、そこからビジネスが生まれ、石川発、全世界に向けた発信基地となればと思い、企画しました。
	歴史軸としての石川と、未来軸としてのイシカワをつなぐセンターとして、このようなものができたらよいと考えております。 拙い発表ではございましたが、ご清聴賜り、誠にありがとうございました。 これから、ご質問やご意見を賜ればと考えております。

4.2. 金沢青年会議所へのヒアリング

日時： 2023 年 12 月 20 日 17：00～18:30

場所： 金沢青年会議所(JCI)（石川県金沢市長町 1 丁目 1-58）

出席者： JCI 木元 拓、 中込 諒仁、 木原 由貴、 岩井 一平、 佐々木 千聖
Fusion node 室岡 姫奈、 宮本 佳奈、 栗山 佑輔、 山岸 邦彰

冒頭、4.1 節に示した発表を行った。

Q1 提案のような画像をどのように製作したのか？

A1 この資料の場合、画像生成 AI を用いて作製した。キーワードを入れると画像を生成してくれる

が、希望する画像を生成することは困難であるため、最終的には自分でパースを書く必要がある。

Q2　ISHIKAWA Center には何があるのか？

A3　このセンターの目的は人口を維持したい、関係人口、交流人口を増やすことである。主としてイベント活動を行うが、人が集まるところには消費行動が生まれるため、ショッピングセンター(SC) などもできる施設を備えている。しかし、ロードサイド店のような SC ではなく、交流から生まれる派生商品などが販売される。ネットでは買えないもの、ネットよりも安価になるようなものが販売される予定である。

Q3　どのような年代の人がこの施設に来場するのか？

A3　いろいろな年代が来場する。イベントと聞くと百者百様のイメージがあるかもしれないが、著名なタレントによる講演会や演奏会の他にも、貸会議室のように決まった人たちが集まって開く会合などもイベントとしてとらえている。

Q4　最近は結婚に対する考え方も多様化して、子供を設けることも自由となっている。ここに出席した学生たちはどのように考えているか？

A4　（出席した学生が自分の思いを伝える）

Q5　将来は石川県に住みたいか？

A5　（出席した学生が自分の思いを伝える）

Q6　提案施設内の最大のイベントホールが 3、000 人収容というのは少し小さい気がする。

A6　大きなイベントホールは、イベントの開始時刻と終了時刻に大量に人の移動が生じる。その際、現状の公共交通機関では大人数の場合、困難になる可能性がある。収容人数を多くすれば集客が見込める訳ではない。

Q7　物々交換という考え方もあるのではないか？そこには、会話が生まれる。

Q8　金沢にわざわざ買い物にくるお客さんがいるのも事実。ガイドに載らないものを紹介できるのも魅力。

A8　地元の人が行く店を知ることができるのも魅力の一つ。再度石川に来たいと考える仕掛けが必要。

Q9　人口が 100 万人になればどのような手段をとってもよいのか？石川県に人が集まったら他の地域の人口が減ってしまう。

A9　この企画ではそれもあり得る。とにかく石川県の人口が 100 万人になればよい。移民も移住もソリューションの一つである。

金沢青年会議所のみなさんと一緒に

4. 3.　石川県に出会いの場を提供するプロジェクトに対するアンケートの結果

この様な提案に対して社会実装は困難であることから、一般の県民の方にアンケートをすることにより、客観的にこの提案について社会実装されたことを想定した状況を推察する。

以下に、実施したアンケートの質問、その結果を示す。

石川県に出会いの場を提供するプロジェクトに対するアンケート（ご依頼）

本活動は、大学コンソーシアム石川が実施する「石川未来プロジェクト」事業の一環として行っているものです。

石川県に賑わいを創出するために、各種イベント（例えば、即売会/音楽イベント/スポーツイベント、など）のような『こと』を中心とした街づくり」を考えています。ご多忙のところ大変恐縮ですが、本プロジェクトに対する皆様の意識を調査いたしたく、ご協力をお願いいたします。

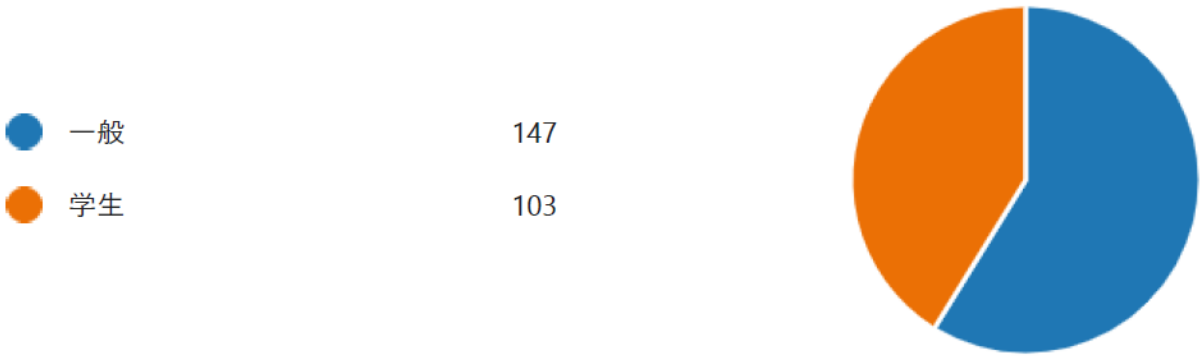
調査結果は上記の目的のみに使用いたします。結果は統計的に処理し、個人が特定されることは一切ありません。本調査で得られた情報は石川未来プロジェクトのみに使用いたします。

解答目安時間は 3 分です。

ご協力のほどお願い申し上げます。

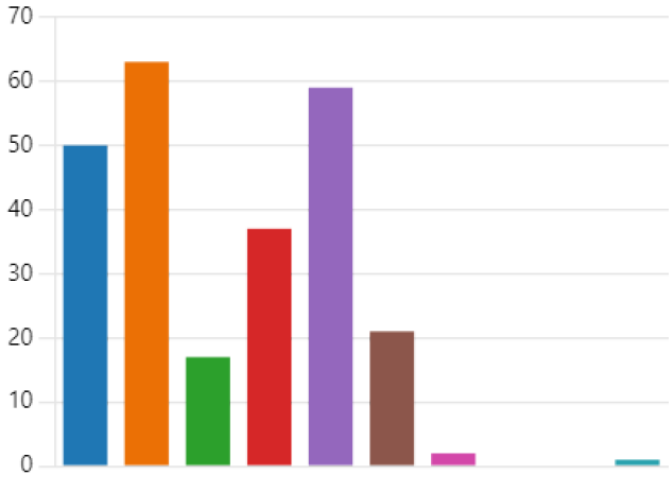
Ⅰ あなたについておたずねします。

1. あなたは学生ですか、一般の方ですか？



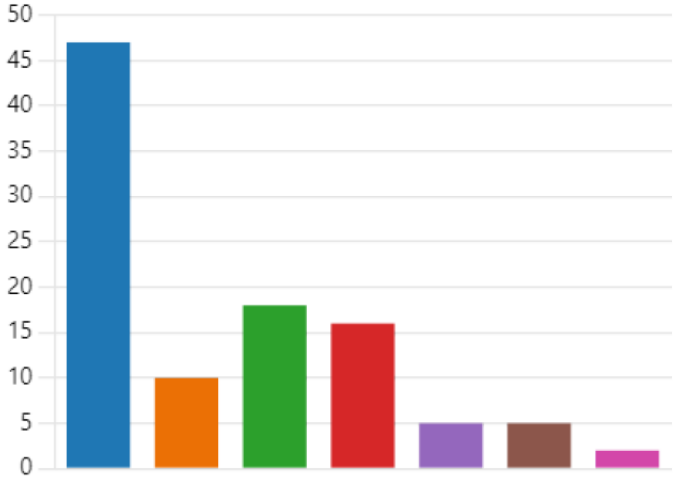
2. あなたの年齢の年代を教えてください。

10代	50
20代	63
30代	17
40代	37
50代	59
60代	21
70代	2
80代	0
90代	0
100代	1



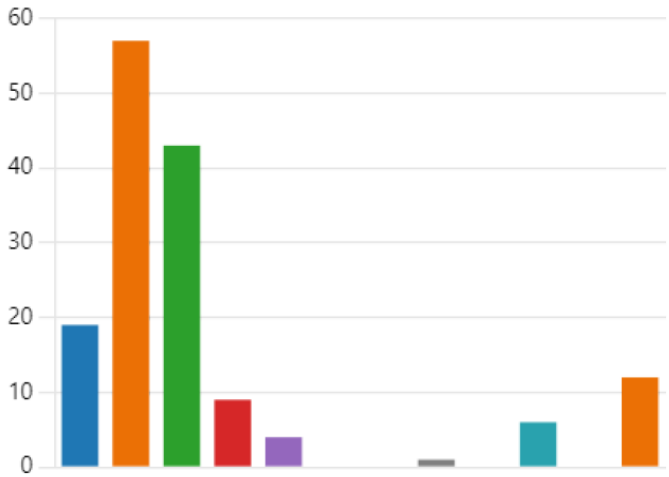
3. 設問 1 で「学生」を選択された場合、学年を教えてください。

大学1年（高専4年）	47
大学2年（高専5年）	10
大学3年（高専専攻科1年）	18
大学4年（高専専攻科2年）	16
大学院博士前期（修士）課程1年	5
大学院博士前期（修士）課程2年	5
大学院博士後期課程（博士）	2



4. 設問 1 で「一般」を選択された場合、あなたが従事されている職種を教えてください。

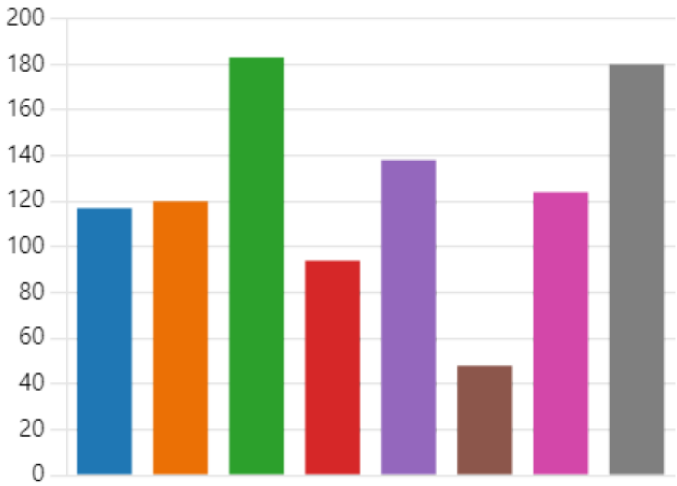
管理的職業従事者	19
専門的・技術的職業従事者	57
事務従事者	43
販売従事者	9
サービス職業従事者	4
保安職業従事者	0
農林漁業従事者	0
生産工程従事者	1
輸送・機械運転従事者	0
建設・採掘従事者	6
運搬・清掃・包装等従事者	0
その他	12



II これからイベントに関する質問をいたします。

5. これまでに、どのようなイベントに行きましたか？該当するものすべて選択してください。

即売会、フリーマーケット	117
展示会（見本市）	120
音楽イベント（コンサート、ライブ、演...	183
演芸イベント（バレエ、ミュージカル、...	94
スポーツイベント（観戦、自分が実...	138
マッチング（婚活、同人会、同窓会...	48
結婚式・披露宴	124
祭り	180



6. 設問 5 のほかに、参加したことのあるイベントがありましたら教えてください。
工作ワークショップ、 ビジネスセミナー、 単発イベント型の料理教室、 学会、 兼六園ライトアップ、 学術会議、サークル、サロン、オンライン交流イベント、読書会、地域サロン、市民活動・NPO 活動交流会、SDGs や国際交流社会課題の解決事業、ビジコン、 外国の人と関わるイベント、 競技会（消防）、小松基地航空祭、 展示会（美術・芸術）、 キャンプに参加、ツーリング（自動車・自転車）、社会見学（会社・工場・競技場・有名建物など）、子供向け絵本の読み聞かせイベント、有名人の私物が見られるイベント、ウェルビーイングのイベント、アニメキャラ世界を体験できるイベント、 カフェの出張イベント、 ボランティア活動、子ども食堂の活動、 食・酒の祭典、 就活イベント、 企業の異業種交流会や地域におけ

るミートアップイベントなど、企業説明会、 文化祭、 婚活パーティー、 音楽フェス、 ミスターオブザイヤー（出演者側）、 オクトーバーフェスト、 フォーラム、シンポジウム、討論会など、百万石出発式、 プロジェクションマッピング、 バンドとして、設問 5 全てのイベントに参加して来ました。500かい程度、 食のイベント、子育て関係のイベント、犀川活用のイベント、 勉強会、研修会（いずれも仕事に係る研修会）、 ライトアップ

7. 石川県内で開催されたイベントへの参加頻度はどの程度ですか？

行かない	34
1～2回程度／年	124
3～4回程度／年	63
5～10回程度／年	21
それ以上	8

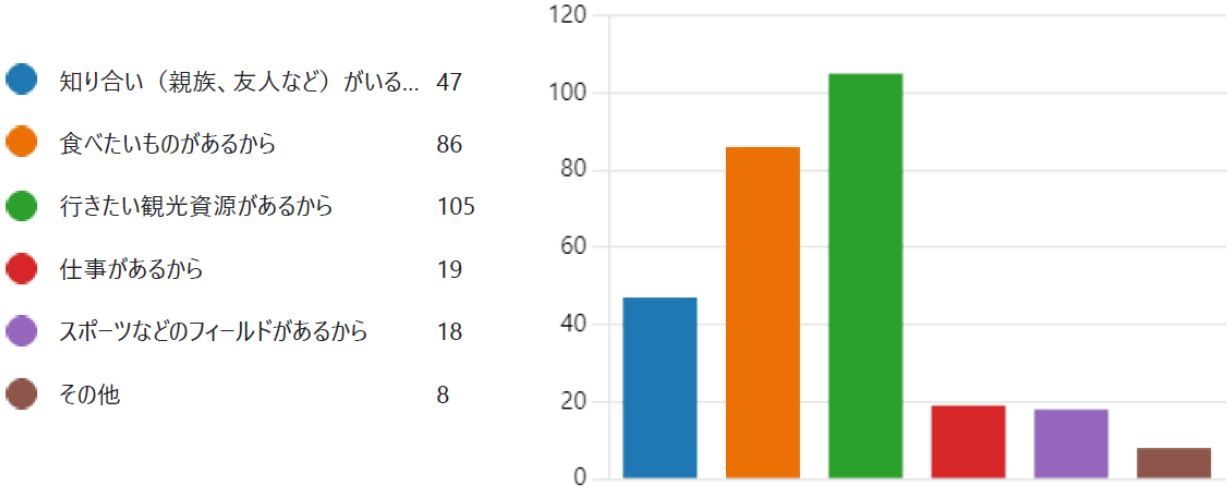
8. 他の都道府県で開催されたイベントへの参加頻度はどの程度ですか？

行かない	86
1～2回程度／年	120
3～4回程度／年	34
5～10回程度／年	7
それ以上	3

9. 設問 8 において、ある頻度で県外のイベントに参加した方へ質問します。そのイベントがなくても訪れた都道府県にもう一度行きたいと思いましたか？

はい	138
いいえ	37

10. 設問 9 においてなぜそのように思いましたか？



11. 設問 5、 6 に記載されたもの以外に、このようなものがあったら行きたいと思えるイベントがあればお答えください。

農業従事者・医療従事者による講習会・講演会、有名 VTuber との MR イベント、 効率的または画期的な文房具・事務用品展、 石川県の歴史遺産を活用したイベント、 オンライン国際交流イベント、 美術館や博物館の特別展、 物づくりなど体験型のイベント、映画イベント、アニメフェスティバル、芸能人イベント、消防レスキュー競技大会、特殊車両集合イベント、新幹線集合イベントなど、 グリーンツーリズムのような体験型イベント、 押しキャラと触れ合えるイベント、県外にしかないキャラクター施設が石川県にやってきたイベント、海外の異文化を体験できるイベント、 健康づくりイベント、 地域おこし、 季節を感じられるイベント、 世代や文化の枠組みを超えたコミュニティ関連のイベント、 工学系の展示会、 ゲームの展示会（TGS みたいなやつ）、CG カンファレンス、 政治関連のイベント、 石川の食文化を体験できるイベント、 都市やまちの魅力や現実を知ることができるイベント、犬関係のイベント、 癒しの空間、建築物、 個人作家の作品の販売会（アートショップ的な）

III 新たな提案についてお尋ねします。

本プロジェクトは、AI や DX では得られない人の物理的な距離を縮めることにより、人が元来有している出会いの遺伝子を目覚めさせ、県民の活性化と関係人口（継続的に石川県と交流し続ける人口）の増加のための“場”を提案します。住んでいて楽しい、幸せ、と思うことが定住の前提であり、石川県の人口減少の緩和に寄与すると考えます。

本プロジェクトは、同じ目的のイベントに対して、集まり、交流することにより、友人関係を深めます。ライブなどの通常のイベントの他にも、そこに行けば楽しい、発見がある、知識が増える、感動できる、“場”として、大中小様々なイベントに対応した施設と、それに付随した商業施設などを含む約 15 万平方メートル（金沢歌劇座約 5 個分）の複合施設を、金沢クルーズターミナルの近くに建設することを提案したいと考えています。

12. あなたが考える、石川らしさ、または、石川の魅力、とは何でしょうか？ご自由にご回答ください。

あなたが考える、石川らしさ、または、石川の魅力、とは何でしょうか？（自由意見）
海鮮が美味しい
多彩な伝統工芸、観光施設等の集約、適度な住環境（適度に発展・適度に田舎）
自然が豊か 観光地が豊富 海鮮料理が美味しい バイ貝が安くて美味しい ノドグロが安くて美味しい ガスエビが安くて美味しい
小京都と呼ばれているにふさわしい街並みが点在している点。また、関西•関東からのアクセスが関東からは新幹線で関西からはサンダーバードと決して半日かかる移動にはならず、悪くはない点。
食べ物がおいしい。 金沢に限って言えば、コンパクトにまとまっている。自然・伝統・新しさのバランスがいい。
伝統的な建築が多く残っている
海も山も、歴史的な建物と新しい魅力あふれる美術館や図書館など。 食事、気候
大野醤油
おいしいものがたくさんある
海鮮、伝統的建造物、海と山の豊かさ
都会過ぎず田舎過ぎない
海鮮
海も山もあり観光資源は多いと思うがまだまだ活用しきれていないと思う。もっとスポーツを活用した町おこしができないかと思う。
程よく整った都会らしさとどこか感じられる田舎の落ち着いた雰囲気
ほどよく都会、ほどよく田舎なところが魅力だと思います。中心部から少し移動すれば海も山もあり、能登にも加賀にもそれぞれの特徴や魅力があります。また、食文化が非常に豊かであることも魅力かつ強みだと感じます。さらに金沢近郊ですと、学都といわれるほどに高等教育機関が多くあり、学生（若者）が集中していることも地方都市としては嬉しいことだと思います。伝統文化と若者文化、都会の洗練された雰囲気と田舎っぽい親しみやすさ、それらが交わるところが素敵だと思います。
伝統の文化が良い形で残されて、表現されている
和の雰囲気
各機関や大学などがイベントを主催し、人種・言語問わず多くの人にふれあうことができること。
ご飯が美味しい 自然豊かだが商業施設も多くて便利
伝統と現代芸術が共存していしているところ
城下町の名残の金沢と加賀温泉郷。新鮮な魚介類を中心とした食事ですかね。
四季の風情が感じられるところです。
和風、伝統文化、工芸品 食べ物が美味しい（海鮮物がある）
自然（兼六園など）と文化（金沢城、東茶屋街など）が両立していること
伝統の街
自然豊か
コンパクトシティとして発展できたら良いと思う。
食
冬の日本海、カニ、ぶり
豊かな自然と食、歴史、文化、芸能、戦災にあっていない都市としての魅力
人の温かさ、小京都っぽい街並み、四季が楽しめる、料理がおいしい、建物が綺麗、住みやすい
海鮮 街並み 米
ご飯が美味しい
漁業や農業も盛んなイメージ
他の県にはないような品がある。
新鮮な海の幸
自然が豊か 古くから伝わる伝統工芸品や文化の数々
21 世紀美術館、工芸館
かにがおいしい
石川県の歴史遺産は全国有数の魅力だと考えています。
人が優しく、魚介類がおいしい。また観光地に限らず、自然が豊富で落ち着く。
おいしい料理、雪の降る独特な気候
小京都とも言われるような古都を大事にしているような都市
食べ物が多種多様にある。いろんなところから人が来ている。
伝統的な地域資源が、戦災をのがれて、日常の生活の中に残っていること
伝統文芸、金箔
海産物に恵まれている
小京都と呼ばれるように昔の景色が残っていること。
海鮮がおいしい、空気が綺麗
「東茶屋街」「石川県立歴史博物館」などの昔からある建築物から「21 世紀博物館」「金沢海みらい図書館」などまである建築物の豊かさ
たべもの
おいしい食事と多彩な文化、四季あふれる自然
海あり山あり美味しいものあり

あなたが考える、石川らしさ、または、石川の魅力、とは何でしょうか？（自由意見）
海岸や温泉、歴史など
文化、工芸
風情や街並み、伝統
自然豊かですぐそばに海も山もある石川県は、国内でもとても恵まれた環境にあると思います。 また、保守的な文化が根付いているものの、人への配慮・気配りやおもてなしの精神は素晴らしいと感じます。
おんぼら～っとしている
山と海の距離が近く、両方のレジャーができる
海山ともに近くにある。
自然・食・文化
歴史のある文化、情緒のある街並み、観光ができる市街地と自然が多い山間部の併存
食と伝統文化の融合
都会へのアクセスが良い　自然豊か　人が穏やか
加賀百万石の栄華を彷彿とさせる街並みやインフラ設備、庭園など
北陸新幹線による交通便の良さ・食・自然。
歴史と文化、学都かなざわ、食文化
街の佇まいや空気感から石川らしさを感じます。人的な交わりから感じる事は難しいのではないかと思いますが、伝統芸能などの地元ならでは催しであれば、そこに携わっている人々から石川らしさを感じるかも知れません。
食体験を中心としたコト消費に値するコンテンツが豊富
日本海側らしい風情がある。新鮮な魚介。
食べ物おいしい、人が温かい
近くに山も海もあり、両方の産物がおいしく食べられることや加賀鳶などの文化財もある。 小京都というように東茶屋などもある。 また、水もおいしくそのため、お酒もおいしいなど。
食、お酒、温泉（能登・金沢・加賀）、観光・文化（城、武家屋敷、寺、兼六園、茶屋街、茶道）、芸術（九谷焼・輪島塗・金箔等）
自然、海の幸山の幸
金箔伝統の充実、加賀百万石の時代背景、食材のおいしさ、全国的にも自然災害の少なさ、子供歌舞伎、ロボット化・自動化の加賀学術文化、北前船・漁業の取組、農業（百万穀・ルビーロマン・加賀野菜など）文化、加賀能登の自然文化、県内で映画・漫画で紹介された地域・特色など
日本の中間に位置し、東西の食や文化の交流ができる立地が魅力だと思う。
日常に伝統工芸品や和菓子などを食べる習慣が根付いている。
九谷焼、雪、かぶら寿し
美味しい食材
気候、都心部から離れているなどの点は東北部である他の地域と変わらないです。 石川の魅力ではないと思われますが、石川と言えば"金沢"というように県名よりも市名の方が有名な気がします。
加賀から能登まで全域で、歴史、自然、魚・酒が旨い
海の幸、山の幸の身近な食材を用いた伝統料理などが魅力
古き良き文化を残しつつ新しい文化を築いているところ
伝統芸能や食、自然をテーマとしたもの
田舎
人の温もり
伝統
豊かな自然と歴史ある街並み
伝統芸能　文化　食
歴史ある建物、美味しい食材、料理
金箔や加賀友禅、輪島塗などの伝統工芸が盛んなところ。魚介類が美味しいところ。
多様な文化、自然、食
文化・自然・食とそれらを誇りに思う人材と、その実績を活かした学びの場。あと太平洋側に対して大局的な日本海側の中心に位置付けられている点。
着物
美味しい海産物　歴史的な街並み
お寿司などの水産業に関する食、千里浜や綺麗な海
京都ほどではないが歴史がある。
伝統と芸術
古都のような雰囲気
景観の良さ
海鮮
蟹が美味しい。寿司が美味しい。千里浜がある。能登の方の海が綺麗。東茶屋街の古き良き街並み。和菓子が美味しい。加賀友禅。
食べ物（魚介、お菓子）がおいしい　歴史的な街並みがある

あなたが考える、石川らしさ、または、石川の魅力、とは何でしょうか？（自由意見）
海鮮がおいしいこと
古い建物と新しい建物が両立している点
田舎すぎない田舎
和な感じ
伝統文化が残っている
伝統文化があり、食べ物が美味しい。
昔ながらの建物が多くあるが、新しいシステムや施設も多いこと
食 兼六園などの和を感じる空間
ご飯が美味しい
自然が豊か。
古風なものと現代的なものが調和しているところ。ご飯が美味しい。
程よく都会
海鮮 街が綺麗
きれい
日本の和文化が多くある。
食べ物、昔ながらの街並み
サービス業の丁寧さ海鮮物の美味しさ
華やかさ
海の幸や和菓子等の食文化と、漆器や金箔、友禅等の伝統工芸が結びつくことで 石川独自の美しい場をつくっているのではないかと思います。
魚介類、金沢の歴史
歴史、伝統、文化、芸術
伝統文化、自然、食
伝統などが残っていること
伝統工芸と現代芸術の調和、豊富な自然（海あり、山あり）、美味しい食べ物、伝統文化や芸術などが盛んであり、生活に馴染んでいる。
海鮮がおいしい。お酒がおいしい。古い町並みがきれい。県内各地に温泉がある。伝統工芸が盛ん。
食べ物
食文化、自然風土、伝統文化
観光都市では無くて、政治・経済に於いての北陸の中心都市である金沢市のすぐ近くに自然（山や海）が有り、港もあり、美味しい食材が豊富な事。
観光資源
食文化　芸術文化
歴史探訪・芸能文化・創作芸術・自然遺産
食事　観光
自然の多さ、中心市街の近代化、伝統文化、街並み
伝統文化
食べ物がおいしい（海の幸など）
文化芸能が盛んで、その歴史も誇れるものがある。
文化の継承
食べ物が美味しい 加賀百万石の伝統
程よく田舎、程よく都会
四季を感じられる事。海鮮が美味しい事。
文化の継承
山と海が近くにあり、食が美味しい所が魅力。
既設によって変化する海と山、両方の幸を被ることが出来る。またそれが非常においしくこの地でしか味わえない。　観光地として街並みや文化を世間に評価されている部分に自尊心を持てる。北陸 3 県の中で一番の県と言われているところ。
縦に長い石川県のため、県の上端・下端、左側・右側で違う風景を楽しめる 住むには良いところ
山があり海がある。 コンパクトに歴史を感じる観光資源がある
雨や曇りなど、冬のどんよりした気候が魅力に感じるような仕掛けやイベントがあったらいいなと思います。自分では思いつきませんが・・・。
四季を感じやすいことと、海、山どちらにも近いことだと思います。
四季や自然（山・海）を気軽に感じられる。伝統的な文化が色濃く残る。
街がきれい。食べ物がおいしい。
伝統工芸や食文化
食文化、イベントとしてほかにプラスする要素はたくさんあるが、おいしいものがないと集客は見込めない。
ご飯がおいしいところ。 他を寄せ付けないプライドがあるところ。 よそ者や新しいものが参入しにくい風潮。それとのせめぎあいの中で生まれる新しいものが石川の新たな魅力を作っているところ。
海、山などの自然がいっぱいあり、食べ物も美味しい。長年培われた歴史・文化・伝統があちこちで見ることができるなど、様々な魅了があると思います。

あなたが考える、石川らしさ、または、石川の魅力、とは何でしょうか？（自由意見）
山や海などの自然が豊富
“らしさ”は石川という範囲で纏めることはできないのではないでしょうか。 加賀南部、北部、能登南部、能登北部で培われてきた歴史、文化、風習、民俗など“らしさ”とは、それらの蓄積の上に成り立つものではないでしょうか。新たに“場”をつくることは、“らしさ”から生まれるものではなく、全くことなるロジックで構築される“場”だと思います。例えばＴＤＲやＵＳＪ また、利用者(消費者)が求めるものも異なります。市内、県内、県外や年齢などターゲティングによっても違うのではないでしょうか。観光客が求める金沢の魅力と、市民が求める金沢の魅力は全く違うと思います。
古い町並みと新しい町並みの融合
山・海に近い環境、日本酒、海産物やお菓子等の美味しい飲食
加賀と能登の多様な自然
全体的に落ち着いている
伝統文化と近代文化の融合、美味しい食べ物
文化と食（和菓子、海鮮）だと思います。
新鮮な食材、美味しい料理（食事）
人情、温かみ、食文化、生活に根差した伝統・工芸・文化
文化が豊か
金沢という中核都市と、能登、加賀地方における自然や風土を背景にした生業や文化等が色濃く残り、関西や関東などの中心という地理的条件の中で、都市部へのアクセスもしやすい。
歴史的文化　　自然の豊さ
・金沢城、兼六園、輪島の朝市等のロケーション、食べ物がおいしいこと等
古い町並み。食べ物。雪
伝統的なものが多い
文化財が多い 能登まで行けば大自然を楽しめる 温泉がある アートに力を入れており、地方でありながら素晴らしいアートにたくさん出会える環境が整っている
伝統工芸、兼六園、魚が美味しい、街がコンパクト（金沢に限るとですが）
歴史資産の豊富さ 食文化の豊かさ
地方都市の割には文化振興に頑張っている
能登半島といった独特な印象を生かした観光資源の発掘、創造により石川県全体としての魅力を高める工夫
自然、和
手頃な価格で美味しい食べ物を食べられること 伝統的な工芸から現代アートに至る文化の冗長性（文化的な豊かさ）
海鮮がおいしい。 金箔が有名。 名物が多い。
昔ながらの風景が残っていること

13. あなたがこの施設に行くとする場合、交通手段は何を選びますか？

徒歩のみ	4
公共交通機関を利用（徒歩含む）	52
公共交通機関を利用（徒歩含む…	27
自家用車のみ	158
その他	7

14. JR 金沢駅から金沢クルーズターミナルまでの間を巡回する無人バスの運行を考えています。前問で自家用車を選択された方にお尋ねします。バスの運行間隔が何分だったらこのバスを利用しますか？

5分以内	11
5～10分以内	52
10～30分以内	94
30～1時間以内	14
利用しない	45

15. 設問 14 において、金沢駅から金沢クルーズターミナルまで、いくらであればこのバスを利用しようと思いますか？

無料	37
100円以内	49
110円～200円	92
210円～300円	31
利用しない	29

IV 初期費と運営費の削減策について

しかし、建設費は 320 億円程度と考えられるほか、その維持管理費用も高額となり、通常の運営では赤字を止めることが出来ないと思われます。そこで、以下のような仕組みを考えて、イニシャルコストおよびランニングコストを縮減します。

(1) 神社仏閣のように、寄進を募り、寄進者（法人など）に対して顕彰する（宣伝広告）。
(2) 所有者は寄進者との共同所有（合有）とする。
(3) ビルメンテナンスを基本的にロボットに（ロボット提供者も寄進と顕彰）。
(4) ZEB(Zero energy building)による電気、ガス費用の縮減。
(5) ZOB(Zero office clerk building)による人件費の縮減。
(6) 調度品は全て寄進であると同時に展示即売が可能。
(7) イベント会場の内装も寄進（宣伝可）。
(8) 外構にある木、石なども即売対象品。

このことにより、試算によれば 10 年未満で初期費用を吸収することができると考えています。

16. 初期費用や施設運営費を縮減するためのアイデアが他にありましたら教えてください。

初期費用や施設運営費を縮減するためのアイデア（自由意見）
最初は運行本数を減らしてどのくらいお客様が使うのかを測る
営利法人企業はメリットがないと寄進などしないので、それ相応の対価を考えないと無理です。先ずは土地所有者の立ち退きから困難を極め、麻布台ヒルズのように施設隣接高層マンションを建設し、住まいを提供するなどが必要かもしれません。施設のイメージ画像（金沢らしさを出したいのだと思いますが、群馬県四万温泉の旅館積善館か長野県の金具屋かい？と見えちゃいます）を見る限り、ロボットメンテナンスは無理です、無機質な外観、内観でないと技術的にロボットに頼ることは不可能ですし、そもそも、AI や DX では得られない人の物理的な距離を縮めると言いながら、せめてシルバー人材等を利用するなどして雇用を生み出そうとしないのもいかがなものでしょうか。外構の木や石も手入れが高額になる割には今時売れません。電機は建物屋上全て太陽光にすれば何とか賄えるかも。小松に北国銀行（最初は、1 地銀が何を言う！と国に却下されて慌ててホールディングスを作っている）がドームを建設しているので、大きなイベントはそちらに取られてしまいます。大学の外部キャンパス貸し（ついでに法学生の法律相談、医大生の健康相談、美大生の作品展示、工大生のプロジェクションマッピング、県立大生の実験が常に観られるなど）や企業オフィスとしてのテナント貸で収益を得るとか、大きな学会が出来る会場貸しくらいであれば需要がありますが、石川県民の人口だけで考えると利用者だけの収益では赤字明確で、県外、国外からの集客を考えるのであれば、それなりに足を運ぶ価値ある目玉がなくては誰も来ません。TDR や USJ のようなアミューズメント施設のように何度も行きたいと思わせる何か？静岡のトヨタの実験都市を作るくらいの規模をトヨタ以上の企業、若しくは複数の企業に依頼マネするのであれば逆に成り立つかもしれません。
毎年開催する企業や団体を募り、サブスクライブ化する。大学生や研究機関、ベンチャー企業など、初期開発を学びの場にすると同時に、経費削減を行う。
クラウドファンディング
一企業に運営を委託しない
大手商業施設（アウトレットモール等）との共同運営
イベント出店したくても、自分で探さないといけなくて困っていた学生もいたので学生さんやイベント出店したい人に積極的に声をかけてお金をもらう
海沿いに発電施設(風力、波力、太陽光など)を併設してランニングコストを低減する。
私個人の案としては、大型商業施設内に町を形成することです。具体的には、石川県内に点在している大学・大学院や民間の研究開発拠点を内包する施設です。
PFI 方式の導入
従来のハコモノ事業の計画策定と予算策定による地域経済波及効果ベースでない考え方を導入すること。市民が運営できる規模でスタートすることで箱物事業に頼らず、交流の質をたかめるソフト事業の設計を行うこと。営利事業のマネジメントと同様の成長戦略と人材育成を考慮の上、観光事業で採算をとれる資金調達ベースで計画を策定すること。
入場券の完全デジタル化
ネーミングライツの導入
用途限定（車・雑貨）しないフリーマーケット会場出品者からの収入
学生が運営会社を立ち上げ、運用する。提案するプロジェクトとして運営を実施
部分的（時間・場所等の制約ありで）な権利販売（占有権・使用権・命名権等）、ＡＩ等による管理・運営等の自動化、サービスのサブスクリプト化
・芸能イベントを開催できるようにして集客を考えること。・クルーズターミナル付近・近郊で土地整備計画を実施し、近辺の集客を考える。・バスだけでなく乗用車の運行ルート充実、駐車場の充実化、駐車スペースに集客店の配置。金沢駅からクルーズターミナルまでのルート上に有名店・集客店の配置。近郊市町村の協力を得られる環境整備および協力機関・体制の準備。
港の一部として施設運営を県か市に担ってもらう。クラウドファンディング。
県内だけでなく県外の方も体験できるバーチャルな空間を設け、即売してはどうか。
旅行ツアーに組み込んでもらう
施設は小さくメンテナンスを簡易なものにする（平屋）
ロボットや AI の実証的な実験場所を兼ねて貸出利用してもらう
既存の施設を利用する。
景観条例に縛られない自由に建物を建設できるようにすべき
清掃業者を頼むのではなく、普段は自分たちで清掃を当番制で回す。
ラッピングバスなどの広告宣伝バス停のネーミングライツなど
この時代に地方都市において、都会で成功する箱モノに投資するという施策を図ろうとする点において疑問を感じます。新たな施設を立てなくてとも、地域のリソースを活かし地域住民と密着した形でソフト事業を行うことはできないのかな…。と思います。ただ、そのエリア及び周辺地域を特定のターゲット（世界）に対して、徹底的にこだわったエリアにするのであればよいと思います。
国際ロボット展など首都圏で行われているイベントの誘致
駐車場を作り、その駐車台で回収する。
建物自体のデザインにお金をかけない
10 年でも回収は難しいのではないか。アイデアは思いつきません。
行政主導でない、完全民営化による運営（第 3 セクターもダメである。）

初期費用や施設運営費を縮減するためのアイデア（自由意見）
各イベント会場などの一部有料ゾーンを設け、クラウドファンディングで寄付を募る
各テナントから徴収
事業開発段階からの公民連携
参加する営利団体からの借用費負担を多く徴収する。
ネーミングライツ／スポンサー制度／建設規模の削減
≪続き≫木、石、伝統工芸は北電が小松駅に作るビルに盛り込まれていたり、県内市内随所に伝統工芸絡みが飽きるほど在ったりするので、この際もっと斬新なシドニーのオペラハウス的なデザインの建物を国際コンペで決めて、歴史に残る建造物として集客を狙えばいかがでしょうか。もうコストは増やすくらいにして国、県、市、国内企業、海外企業の協力も求め兎に角良い物を作り、隣接でリッツくらいのホテルを（金沢市の海沿いにホテルが無い）を建ててシンガポールのマリーナベイサンズのようにして、富裕層に長期滞在してもらい県内にお金を落としてもらう。クルーズターミナルに豪華客船が来るのならば、来県富裕層も石川県民も交流でき楽しめるような建物にすれば良い。
各種イベントを開催して入場料を徴収する
建設の圧縮の為に工期を確保し、地元企業のみの建設。ボランティア活動のみかえりとする石川ポイントの創設
１Ｆ（平屋）として建物・設備をメンテナンスしやすいようする
建設費と保守・維持費をセットにして入札する。最低制限価格なし。
建物には最低限の設備(電気・空調・衛生）のみを設置し、それ以外は使用者が準備（負担）する
道の駅等で地元特産品の販売収益の一部をあてる
簡易な建物の集合体など時代の変化に即座に対応できる構造のものにすれば良いのではないでしょうか。
・クラウドファンディング（ただし、事業自体に相当の魅力がなければならない）
調度品に、顕彰プレートを付けて寄進した人が見ることができるようにする。

17. 率直に、このような施設の提案に賛成されますか、反対されますか？

賛成	112
反対	37
分からない	98

18. 設問 17 において、そのように思われる理由を簡潔に教えてください。

施設の提案に賛成/反対に思われる理由（自由意見）
共同所有とした時の有事時の責任の所在や、金沢に建設するということで、単純に 320 億円を 46 万 5 千人で割って 1 人あたり 7 万という金額は、けっこう大きいがクラウドファンディング等で賄えるものか分からないと思ったため。
観光的にも魅力のある建物だと思うから。
箱ものを作ると、その後の管理運営が大変なのでは。今ある施設や、ネット上で何かを考えていく方が実現性があるのでは
新しい交流拠点として、おもしろそう
金沢港へ行くのがふべんだと感じていたから
活性化するならいいと思うから
提案自体は面白いので賛成ですが、実現は限りなく不可能です。どこかの学長たちが無駄な時間を費やした「金沢文化・学術研究開発都市未来構想」よりは、まだ現実的で良いと思います。
実際に行ってみたい
石川県の発展に繋がると思ったから
自分がその環境で学びを得ることがありそうだから。
財政上の懸念点はあるが、それ以上に人との交流が活発にあるため。
具体的にどのような施設なのかわからない為。
どんな施設か具体的にわからないから
色々な方と関わるのは自分のためになるから
金沢クルーズターミナル会場も入港によって確実に使用できない施設、今回も建設地の管理費用等このような場が必要だとは思わない。
石川県が観光地としてインバウンドなどで発展していくといいと思うが、どこに行っても観光客があふれているので、クルーズターミナルのような静かなで穏やかな空間がもう少し広がれば住んでいる者としてはうれしいです。

施設の提案に賛成/反対に思われる理由（自由意見）
一部の企業だけが利益を得るのではと考える
賑わうため
まだ想像がつかないから。
税金の無駄です
建設にお金はかかると思うし、クルーズターミナルは普段利用しないけど、若者とか親子連れの集まりの場があることは嬉しいと思うから。
このような施設があったらぜひとも行ってみたいから。
本当に出会いの場に価値があるのかがわからないから。
お金が大きすぎて想像できないから
コンセプトに賛同したから。
場がない
交通の便が原因で衰退した大型施設やニュータウンの例が数多くあるため、世界的共通価値観（TDR、USJ）に基づかない商業施設が成功するかはわかりません。
削れるところは削るべきだから
距離が長すぎる。県庁あたりからならまだわかるが、金沢駅からは作らなくても良いと思う。また、クルーズ船も毎日来るとは限らないため、効果が不透明である。
港湾施設の発展は興味があるから
このままだと、単なる箱物事業で県民に負担がかかる。少子高齢化の中、抜本的なアイデアを市民の「ニーズ」に頼るアンケートから、県民のかつやく場所や賃金が低廉であり質にみあってない人材戦略がすけてみえるため、いわゆる箱物事業による地域経済効果を持続させるためのアセットマネジメントのコストが増大するばかりに思えるため。
提案施設だけではなく、周辺の施設も重要な役割を果たすと考えられるため、どの程度訪問者にとってメリットになる施設があるか分からないから。
高額なプロジェクトのため、どれだけ石川県の経済に影響を及ぼすのか想像ができない。
イメージがつかない
産業展示館では手狭で駐車場も非常に混雑するから
金沢に人の集まる大型の施設が思い浮かばない
何をその施設どんなイベントがあるのか分からないため。
出会いの場、という定義が具体的でない感じがします
集客がそこまででないように感じられる
出会いの場を,公費を使用して建設すべきではない。また、机上の空論である。
あまりビルディング等の建物は石川には好きではない。
建物のビジュアルなど、もう少し具体的なイメージを見て判断したいためです。
リピート客毎月・毎年訪れたくなるような催しが計画されているかどうかが判らないから
新しいものをつくるより、既存のものを有効活用すべきと考えるから
赤字にならないようできることはやったほうが良いと思うから
ターミナル近郊の商業施設が魅力的で充実していないと、人の流入は見込めない。どのように人な流れを取り込むのか、街の賑わい創出を含め全体を提案するべき
ハコ物は、中身のコンテンツ陳腐化、納得できるレベルのコンテンツが提供できるか等々で失敗と思われる施設が全国にある。そこに人的交流を加えると言う事は、関与する人達の拡がりと維持管理が加わる事となり、投資対効果を得る事が非常に難しいのではないかと考える。
既存設備等の活用で趣旨を賄えるのではないかと考えるため。
人々の楽しめる場所が増えるのはいい事だと思うから。
あまり興味がないため
産業・雇用・流入人口等へ良い作用があると思われるため。
利用効果（参加者数など）がわからないから
石川県には人が楽しんで大勢が集まれる場所が少ない。全国から集まるイベント場所がない。
実現の見込みがわからない
税金を使って建設するのであれば、明確な目的をもって誰にでもわかりやすい施設の建設・宣伝・運営が必要だと感じたから
建物ありきに思える
具体的な内容ではないが、やってみようとするのが大事だと思ったため
魅力的な複合施設のイメージが湧かない
近年ネットでの出会いの場が多い中、実際に集まる場ができるのは安心して子供にも勧められる
ある施設の再利用、活用を増やすべき
費用対効果
周りも巻き込んで運営をしていくことでいろいろなアイデアが出そう。
初期費用を吸収することができる
メリットとデメリットの比較が容易でない

施設の提案に賛成/反対に思われる理由（自由意見）
クルーズターミナル(金沢)に新たな魅力が加わる
魅力的な施設かつ上記建設費用回収が現実的なら、県内に新設されることは望ましいです。
基本的には賛成だが、削減策が可能かどうか疑問に感じる
駅から遠い
自分にとって興味のある場所になるか不明
コスト面で多くの課題があるとは思うが、石川県の魅力がより上がると感じたから。
目的というかコンセプトの深掘りがなされているのか？という疑問。または情報が不足していて、正直判断に難しいと思うところがありますが、なんとなく海外含む都会のビジネスモデルの焼き直しのような感じがしました。もっと日本独自の取り組みができないかな…と感じました。
他のことにお金を使ってほしい
新しい商業施設ができるのは労働需要や、地域の交流、発展に繋がるため良いことだと思うから。
石川の活性化に期待する。
金沢には観光客向けの施設が沢山あるが、住人向けの施設があまりないから。
石川県の活性化
現在の金沢歌劇座は駐車場が少なく駐車代も高いが、最寄り駅までが遠い地域に住んでいる人にとって公共交通機関を使うというのは時間も費用も多くかかってしまうため、自家用車で行く選択肢以外ありません。しかし、金沢港付近であれば駐車場を多く設けることも可能だと思われるので、駐車場を多く設けるのであれば賛成です。
この建物を作っても、人との出会いが生まれるとは感じられないから。まず、地元の人のアクセスが悪すぎる上に、外部から来る人のアクセスも悪い。この建物を建てるより、アーティストがライブを開催するのに選んでくれるようなコンサートホールを作った方が良いのではないか
その施設が自分に直接的に与えるメリットがわからないから。
実際にそのような施設がどれくらいの人に使われるのか分からないから
観光地はほとんど行って飽きたから新しい場所があったらいいなと思う
リサイクルできるから。
都市が発展する良い機会だから
ひとを集められない気がします。
金沢港エリアは発展する余白のある場所だと感じているため
イタリアなど西洋のように、もっとおしゃれなヨットハーバーなどを構築しないと魅力は感じられないと思う。バカ高い係留費などを格安にして中央の資本をこちらで落としてもらう。(新幹線でくればいいのだから。)
集客で採算が取れる範囲で考えるほうが良い。
だれかが損をしている政策ではないから
石川県の発展に繋がる提案であるから
今後、金沢港が海外からのクルーズ船が就航し、隣接地に施設があれば、食・伝統文化などの交流も増え、石川に定住を考える人が増加すると考えられるから。
活性化に効果があると思うが、イベント次第
事業内容が分からないので。
いろんなことを体験してみたい。
リスクが大きすぎる
金沢経済を活性化させるため
プロジェクト規模が大きすぎる。財政経営のスキームによるが、恒常的赤字の可能性が極めて高いと思われる。公金チューチューならやめてほしい。
どのような施設であれ、町の発展と賑わいに貢献する建築であるなら
本当にどちらともいえない
新しい施設は必要
石川県程度の人口ではそのような施設を造っても大して集客できない。金沢駅前ですら空洞化しているのに、駅から離れた場所に新たな施設を造るという考え自体がおかしい。
行きたいと思う場所・イベントがあったら行くので、賛成でも反対でもない。
既にクルーズターミナルがあるので、それを利用すればよいと思う。
今現在、遠方から石川県を訪れる人は街並みや食を目当てにした観光客。今回の施設はイベント会場であれば訪れる人は近郊県でありその県は石川県よりも人口の減少比が高い為施設としては効果を期待しづらい気がする。
規模やその他詳細が不明のため
金沢港近辺はもっと人が行き交う場になって欲しい。
海側が栄えて、イベントが増えるとうれしい。
今、「金沢」の地名が独り歩きして、観光客が飽和状態のように思います。新しい観光地を作ることはとても良いと思います。が、北鉄バス頼みの観光地巡りはかなり厳しいしかわいそうです。雪も降りますし、地下鉄など新しい公共機関が欲しいです。アサデンを金沢駅から野町までつなげてもらうのも良いと思います。
費用削減につながるため

施設の提案に賛成/反対に思われる理由（自由意見）
都市の規模から逸脱していると感じるから
今後人口減、高齢化が進む中で、費用対効果がどの程度あるのか懸念がある
金沢港周辺の活性化により、金沢のにぎわいに繋がりそうだと思う。
費用対効果がわからないから
クルーズターミナルと連携し金沢港周辺がもっと賑わい、金沢駅と港との連携が強化されれば魅力が高まると思う。
多額の費用をかけてまで行うニーズがあるとは思えない。
石川県民にとって海がもっと身近な存在でもいいと思うから。
新しい石川の魅力につながれば良いと思います。
必要性を感じない
興味がない
①賑わい衰退の原因である商圏の拡散をさらに加速させる計画であるため。②人口減少や社会情勢の変化を踏まえた計画ではない。③事業破綻した場合の県民負担のリスクが大きい。④小松空港周辺で計画されているアリーナ構想との差別化、収益確保が明確ではない。
金沢港周辺の賑わいは金沢の発展にとって重要であるため。
建設されれば行きたいと思うが、現在のところ今の生活を送るのにもかなりの費用を要するので新たに費用が別途でかかると考えた際あまり喜ばしくない意見の方が多い気がする
楽しそうで良いと思います
施設の運営をしっかりと考えているため
賑わい創設であれば、民間主導（民間の考え方）で行うべきと考えるため
施設の内容とその継続性を見ないと判断できない。
無人バスがあってもなくても、施設に行く人は行く。行かない（興味がない）人は行かない。
どの程度の寄進を想定しているのか、また実現できるのか、不明確であるから
賑わいの種は必要だと思う
お金のことはよくわからないから
大きすぎて、需要があるのか心配
費用対効果があるか判断できない
継続、存続のイメージや確信が持てないため
街が発展するのは、嬉しいから
10 年後もその場所があるかが不安。
イベントが増えることで石川県の人が楽しめるだけでなく、石川県に来てくれる他県の人が増えそうだから。

4.4. 本事業の成果

本プロジェクトは、人口減少に歯止めをかけるための提案を行った。成果はこの提案である。本来であれば、成果報告会と石川未来会議で発表し、審査者をはじめ知事、有識者の見解を拝聴したかったが、予定が変更となり、意見等を聞くことが出来なくなったことは残念である。

元日に発生した能登半島地震により、多くの石川県民が被災された。本提案がそのまま実現するとは思えないが、多岐に亘る提案を経て、石川県自身が元気を取り戻せたらと願っている。

5. 活動に対するコーディネーターからの評価

今年度は、前期はチームに分けずに共通話題について全員がディスカッションを行い、後期にチームが組成され、チーム活動による提案活動が行われた。チーム組成後、思いがそれぞれ特異であり、チームがまとまるまでに時間を要したが、各人からの提案は優れたものがあり、これらの提案の優れた部分を抽出して提案へ導くことがコーディネーターの主な役割だったと認識している。メンバーはそれぞれの所属機関において活動されており、共通時間を設けることが極めて困難であり、Web 会議システム(Zoom)を多用することになった。本来は対面の時間を増やしたかったが、異なる高等教育機関の混合体の運営の難しさをあらためて痛感させられた。

後は答えのない社会で活動することが予定されている中で、この活動を通して提案することの難しさと達成感の両面を体験してもらい、将来で活躍されることを願っている。